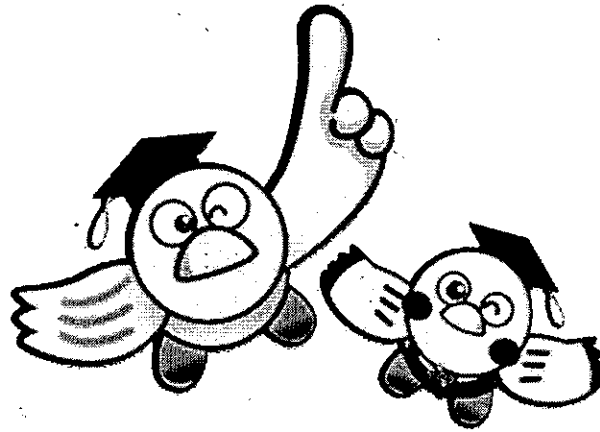


東部地区学力向上推進協議会

研究校・学力向上実践事例集



埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」

「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業
「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業
学 力 向 上 研 究 校 指 定 事 業

令和元年度東部地区学力向上推進協議会

埼玉県教育委員会

目 次

挨拶

埼玉県教育局東部教育事務所 所長 長井 圭子
 東部地区学力向上推進協議会 会長 前田 稔

各教育委員会・各学校の実践事例

春日部市教育委員会	1
春日部市立内牧小学校	3
杉戸町教育委員会	7
杉戸町立杉戸小学校	9
羽生市教育委員会	13
羽生市立羽生北小学校	17
松伏町教育委員会	21
松伏町立松伏小学校	25
吉川市教育委員会	29
吉川市立東中学校	31

令和元年度 東部地区学力向上総合プロジェクト

東部地区学力向上総合プロジェクト本體會議
 東部地区の児童生徒の学力・学習状況を把握し、児童生徒の学力向上に資するための「東部地区学力向上総合プロジェクト」企画・立案を行う。

東部地区市町教育委員会 学力向上推進担当者会議
 ◆東部地区学力向上総合プロジェクトの共通理解
 ◆東部地区市町教育委員会による学力向上に係る具体的な取組の推進

1. 学力向上ワークシート作成会議
 ◆理解で入るワークシートの作成
 ◆基礎基本の定着、読解力・判断力・表現力の育成
 ◆家庭学習の推進、学習習慣の定着

2. 授業エキスパートを目指す授業研究会
 ◆授業力の向上、学び合う研修
 ※授業者も選出、全教科等の授業研究会を計画
 ※小学校・中学校・高等学校で実施予定

3. 英語教育に係る事業
 ①NPO学校英語教育推進事業
 ◆英語指導力向上促進事業
 加東市立加東中学校
 加東市立加東小学校
 ◆小学校英語
 ◆英語指導力向上促進事業
 中東部地区英語教育推進協議会

4. 校内研修を支援する学校訪問
 ◆授業改善等についての学校からの要請に応えるため

5. 良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業
 ◆県学習の取組からの学力を伸ばしている授業を抽出し、実践付きの事後資料を作成
 ◆良い授業を実施する教員のノウハウを共有、普及
 ◆「読解力校」推進中

6. 学力向上推進のためのホームページコンテンツの充実
 ◆学力向上ガイドMAPの活用
 ◆教員の研修力向上
 ◆児童生徒の学力向上
 ◆家庭・地域の教育力向上
 ◆「学力向上のためのホームページコンテンツ」活用促進協議会

7. 東部地区学力向上推進協議会(研修会、研究校連絡会、研究発表会)
 ◆東部地区学力向上推進協議会の運営
 ◆研究校に関する取組
 ◆研究の普及・啓発
 ○学力向上研究校指定事業
 ○「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業
 ○「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業

8. 学力向上研究校指定事業
 ◆国や県の学力・学習状況調査の結果を活用した学校の特色改善サイクルの確立
 <研究校地区・研究発表校>
 吉川市教育委員会
 吉川市立東中学校

9. 「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業
 ◆小学校3～5年生に対する教育的支援の方向性(研究・実践)
 <委託地区・モデル校>
 春日部市教育委員会
 春日部市立春日小学校
 杉戸町教育委員会
 杉戸町立杉戸小学校

10. 「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業
 ◆「学力向上プロジェクトチーム」による取組
 ◆「学力実践力UP」活用促進
 <研究校地区>
 羽生市教育委員会
 松伏町教育委員会

「第3期埼玉県教育振興基本計画」
 (平成31年度～平成35年度)
【基本理念】
「豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育」

- 東部地区学力向上総合プロジェクト
- ①学力向上ワークシート作成会議
 - ②授業エキスパートを目指す授業研究会
 - ③英語教育に係る事業
 - ④校内研修を支援する学校訪問
 - ⑤良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業
 - ⑥学力向上推進のためのホームページコンテンツの充実
 - ⑦東部地区学力向上推進協議会(研修会、研究校連絡会、研究発表会)
 - ⑧学力向上研究校指定事業
 - ⑨「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業
 - ⑩「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業

挨拶

埼玉県教育局東部教育事務所

所長 長井 圭子

現在、生産年齢人口の減少やグローバル化の急速な進展など社会情勢が変容し、AIやロボット等が飛躍的な進化を遂げるなど、教育を取り巻く社会の動向も大きく変化しています。そのため、これからの社会をたくましく生き抜くために必要な力を、子供たち一人一人に育てていくことが一層重要となってまいりました。

埼玉県では、平成31年度（令和元年度）からの5年間に取り組むべき教育施策の体系を明らかにした「第3期埼玉県教育振興基本計画」を策定しました。これまで基本理念として掲げられた「生きる力を育て 絆を深める埼玉教育」を継承しつつ、教育に求められる役割や子供たちに育みたい力などを踏まえ、「豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育」を新たな基本理念に掲げました。

東部教育事務所では、こうした社会の動向や県の方針を踏まえ、東部地区の児童生徒一人一人の学力向上を目指しています。学校・家庭・地域、市町教育委員会、教育事務所が連携、協働しながら子供たちの学力向上を目指す「東部地区学力向上総合プロジェクト」の中に、県委嘱の研究委嘱校への支援を始めとする10の事業を位置付け、取り組んでいるところです。

研究委嘱校及び関係市町教育委員会におかれましては、「埼玉県学力・学習状況調査」の分析結果等の活用や「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の推進により、着実な成果を上げてくださっていることに、心から感謝申し上げます。また、本実践事例集の作成にあたり、多大なる御尽力をいただきましたことに、重ねて御礼を申し上げます。

各学校におかれましては、これらの取組事例を有効に活用し、児童生徒一人一人の確かな学力の育成に一層の御尽力を賜りますようお願いを申し上げます。挨拶といたします。

東部地区学力向上推進協議会

会長 前田 稔

平成が幕を閉じ、新たな時代「令和」がスタートしました。この「令和」には、一人一人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いが込められているそうです。

小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から次期学習指導要領が全面実施となります。「主体的・対話的で深い学び」や「社会に開かれた教育課程」など、学校教育を取り巻く環境も時代の変化とともに変革期を迎えています。子供たち一人一人が変化の激しい社会を生き抜いていくためには、知・徳・体のバランスのとれた資質・能力を高めていくとともに、新たな価値を生み出す力を身に付けることが重要となってきます。

「学力の伸び」が分かる「埼玉県学力・学習状況調査」も5年目となります。本調査においては、学力や学力の伸びに加えて、「非認知能力」や「学習方略」といった点からも結果を分析・活用することができます。過去の非認知能力が、現在の学力に与える影響が大きいことが示唆されたと伺っています。子供たち一人一人を確実に伸ばしていくためには、調査結果を分析・検証し、学校の実態に即して改善を図っていくことが必要であると考えます。

本年度の東部地区学力向上推進協議会では、「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業、「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業、「学力向上研究校指定事業」の3事業について、各市町教育委員会と研究委嘱校が連携・協力し、工夫を重ねた実践がなされてまいりました。この「研究校・学力向上実践事例集」には、各研究の実践から得られた成果や課題、改善策等が掲載されています。

東部管内の小、中学校及び義務教育学校におかれましては、本実践事例集を御活用くださり、各校の指導内容の充実や指導方法の改善等に役立てていただければ幸いです。

伝え合い 学び合い 育ち合い 思い合いが

うれしい教室 うれしい学校づくり ～『春日部メソッド』の推進～



○教委名	春日部市教育委員会
○所在地	春日部市粕壁東3-2-15
○TEL	048-763-2448
○E-mail	shido@city.kasukabe.lg.jp
○URL	http://www.boe.kasukabe.saitama.jp/

1 研究主題

(1) 研究主題

伝え合い 学び合い 育ち合い 思い合いが

うれしい教室 うれしい学校づくり ～『春日部メソッド』の推進～

(2) 研究主題設定の背景

春日部市教育委員会では、学習指導要領や春日部市第2次総合振興計画の基本目標1「子どもが幸せに育ち、生きる力をはぐくむまち」を受け、「生きる力」の育成を目指した春日部市ならではの教育を推進している。そのため、各学校が地域と連携した魅力ある学校づくりのための特色ある教育活動を展開する上で、その全体像となる「かすかべっ子 はぐくみプラン」を共有するとともに、「伝え合い 学び合い 育ち合い 思い合いが うれしい教室 うれしい学校」を合い言葉に「春日部メソッド」を推進し、教育内容の充実を図っている。以下、具体的な取組について述べる。



2 研究の実践

(1) 研究の委嘱

児童生徒の「確かな学力」と「豊かな心」、「健やかな体」をはぐくみ、新しい時代を力強く生きるための力の育成を目指した魅力と活力のある学校づくりを推進するため、市内の小・中学校に研究を委嘱、本市全体の教育力の向上を目指している。令和元年度は、15校に教科等の研究を委嘱し、5校を研究モデル校として指定し、そのうち7校が今年度の研究発表会を行った。

(2) 教育研究員研究協議会

教育研究員（各学校の主幹教諭、教務主任、研修主任等から1名ずつ）により、各学校の各種調査結果（全国、埼玉県学力・学習状況調査）から児童生徒の実態を把握・分析し、学校教育の充実を図る研究等について協議、情報共有を行った。

(3) 春日部学力向上プロジェクト

学力におけるPDCAサイクルを確立するため、各学校の教育研究員が中心となり、各種調査結果をもとにした学力向上プランを作成した。指導主事が市内小・中・義務教育学校3～4校を担当し、このプランの作成、実施、振り返りを支援した。

(4) KWT（カスカベ・ウィンター・テスト）の実施

埼玉県学力・学習状況調査の結果をもとに、指導主事が市内の児童生徒の算数・数学における学力や学習状況を把握・分析、検証を行い、問題集「KWC（カスカベ・ウィンター・チャレンジ）」を作成し、全校へ配布した。学年ごとに、課題となる領域については内容を増やし、KWT（カスカベ・ウィンター・テスト）を実施し、その定着を図った。この取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立している。

(5) 学習に係る支援助手の配置

個別の支援を必要とする児童生徒への支援、外国語活動の指導補助など、学校のニーズに応じて学習に係る支援助手を配置している。令和元年度（後期）は、普通学級支援助手47人、特別支援学級支援助手24人、小学校英語指導助手22人を配置した。また、小・中・義務教育学校における英語教育の充実を図るため、外国人の英語指導助手（ALT）を通年で13名配置している。

(6) 教職員提案制度

市内小・中・義務教育学校教職員による特色ある教育施策の提案を公募し、優れたものを表彰している。優れた提案は、春日部メソッド実践発表会（教職員提案制度に係る提案発表会）にて、市内教職員への周知を図っている。昨年度の実践発表会では、15の実践・提案が発表された。



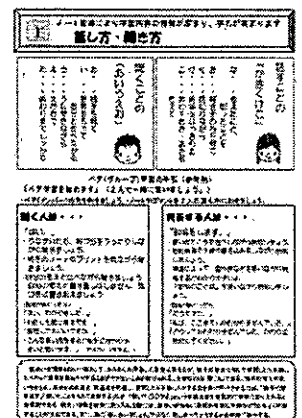
〈春日部メソッド実践発表会〉

(7) 学力・学習状況調査の活用

全国学力・学習状況調査、県学力・学習状況調査の結果を指導主事が分析して課題を明らかにするとともに、指導上のポイントを市教育委員会ホームページに掲載している。校内研修等の学校訪問の際には積極的に調査問題を活用した研修を行い、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善について指導・助言している。

(8) 市教委作成資料『春日部メソッドの具現化をめざして』の活用

教員の資質向上を図るため、学校教育専門員、指導主事により訪問指導等を行う際、市教委作成資料『春日部メソッドの具現化をめざして』を活用している。初任者教員・臨時的任用教員訪問では教科指導を、2年次教員訪問では道徳指導を中心に実践的指導力を養い、教員としての使命感や幅広い知見を得させることを目的としている。また、3年次教員は、教科等の指導力向上だけでなく自己評価シートも用いながら実践的指導力や課題解決力、対応力の拡充に関する指導をしている。



(9) 校長会・教頭会における管理職への指導・助言

校長会・教頭会において、学習状況調査等の分析結果や市内の課題等を報告した。各学校で分析を行い、課題や改善方法を明確にして取り組むよう指導・助言している。



3 研究の成果と課題

(1) 成果

今年度は、今まで以上に担当校指導主事による学力向上に向けた訪問・支援を行ってきた。各校の実態に合わせた指導助言、また、市教委作成資料『春日部メソッドの具現化をめざして』を活用し、各学校で指導方法の工夫・改善を重ねることで、「春日部メソッド」が推進されてきた。研究委嘱校による研究発表会では、新学習指導要領に向けた先進的な取組が多く、すばらしい研究成果を市内へ広めることができた。

(2) 課題

今年度学力向上プロジェクトとして、指導主事による学校訪問、学力向上プランの作成に取り組んできた。各校におけるこれまでの成果を児童生徒一人一人の学力向上につなげるため、各種調査から課題を明確にし、更なる手立てを構築していくとともに、まもなく全面実施となる学習指導要領の趣旨を踏まえ、教員向けの研修の充実を図っていく。

児童一人一人の確かな学力を向上させる学習指導法の研究

「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業



- 学校名 春日部市立内牧小学校
- 所在地 春日部市内牧 2415 番地 2
- 電話番号 048-752-3256
- E-mail uchimaki@educet.plala.or.jp
- URL <http://schit.net/kasukabe/esuchimaki/>

1 研究主題

(1) 児童一人一人の確かな学力を向上させる学習指導法の研究

～できる・わかる喜びを味わえる算数科の授業実践を通して～

(2) 研究主題設定の理由

本校は平成26年度～28年度に国語科の指導法研修を進めた結果、主体的に国語の授業に取り組めるようになり、自分の思いを言葉で表現したり、書く力や読み取る力が向上したりする児童が増えた。国語科の学力テスト等においては、どの学年もおおむね平均を上回る結果を得ることが出来るようになってきた。しかし、算数科においては、基礎・基本の定着に課題が見られ、その課題は学年が上がるにつれて顕著になっている。

そこで、研究仮説として「算数科の授業において、学習意欲を喚起するような学習指導過程や教材・教具の工夫を行い、数学的活動を充実させていけば、学ぶ意欲が高まり、児童一人一人が確かな学力を伸ばすことができるであろう。」
「算数科で学んだことを計画的・継続的に繰り返して指導を行い、学びの機会を充実させていけば、基礎・基本の内容が確実に定着し、わかる・できる喜びを味わうことが出来るであろう。」とし、課題解決を目指していく。

また、上記のような実態から、本事業（「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業）を通して、研究組織を活かしての授業改善はもとより、家庭、地域、関係機関等連携し、児童一人一人に確かな学力を付けることを目指し、本課題を設定した。

(3) 目指す児童像『確かな学力を身につけ、できる・わかる喜びを味わえる子』

低：基礎的基本的な学習内容を身につけている子

友達の考えを聞いたり、自分の考えを発表したりする子

中：既習事項を生かして課題を解決できる子

友達の考えのよさに気づき、学び合える子

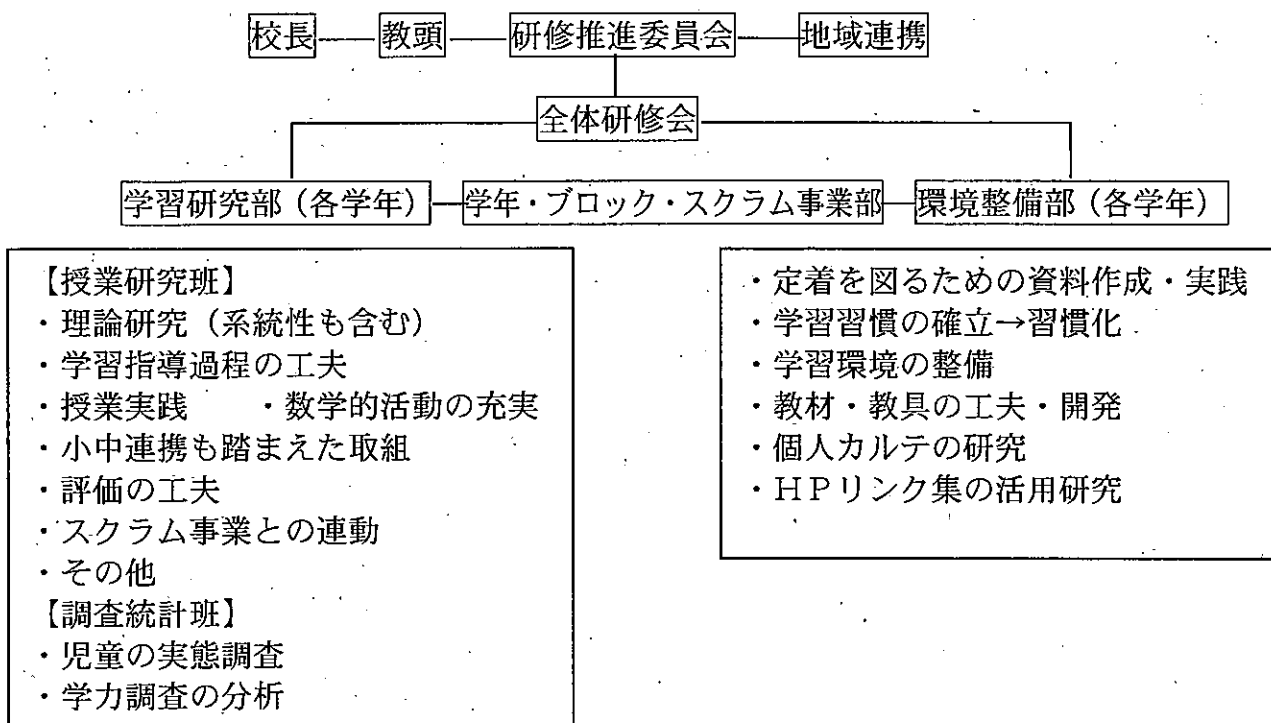
高：見通しを持ち、筋道を立てて課題を解決できる子

友達などの考えと自分の考えを比べ、深められる子

(4) 効果の検証

埼玉県学力・学習状況調査の平成29年度と平成30年度、令和元年度の結果を比較検討し、3年間における児童一人一人の学力の伸びを検証するものとする。

2 研究の実践
 (1) 研究組織



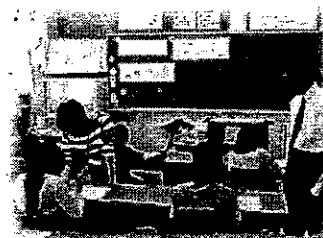
※研修推進委員～校長、教頭、主幹教諭（研修主任）、算数主任、加配教員（1）
 少人数指導（1）、学習研究部長（1）、環境整備部長（1）
 各学年（1）

(2) 児童一人一人の個に応じた指導形態等の工夫

ア 加配教員と4・5年生の授業でのかかわり

①算数科における習熟度別学習（3学級を5名の教員で指導）

本事業の委嘱を受けて、本校には2名の加配教員が配置されている。昨年度まで3・4年生を対象としていた本事業の継続的な効果検証を図るため、今年度は対象学年を4・5年生とした。対象学年と加配教員の算数の授業時間を合わせて、5名の教員で行えるように時間割を調整し、教員1名に対する児童の人数を少なくした。これにより、児童一人一人の活動を見取り、個に応じた指導を手厚く行えるようにした。

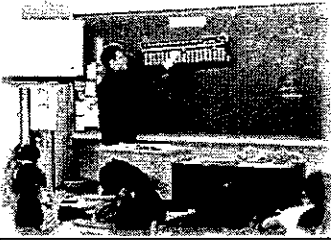


複数教員での個別対応

②国語科におけるTTによる指導

国語においては、各クラスの授業をTTで行っている。導入の工夫など、児童が学習内容に主体的に取り組みやすいよう指導している。2人で机間指導を細かに行い、つまづきのある児童の支援を確実にできるようにした。また、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に係る単元を加配教員がT1として行うことで、教材研究を深め、言葉や漢字についてのきめ細かい指導を行えるようにした。

イ 学習ボランティア（地域人材・ICTサポーター）を活用した授業



算数の基礎基本の定着に向けて、地域人材やICTサポーターに学習ボランティアとして協力を仰いだ。専門的な知識や指導法、学習コンテンツの用意や児童一人一人への細かな声掛けをすることで、児童が意欲的に活動に取り組む様子が見られた。

地域のそろばん教室の先生による「そろばん」の授業

(3) 基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指した補充学習の実施

ア 埼玉県学力・学習状況調査の検証

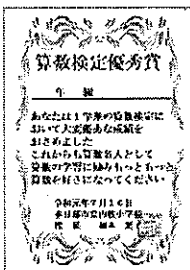
埼玉県学力・学習状況調査、学力向上ワークシートの結果の検証を行い、今後の支援方法を協議した。

イ 「内牧計算道場」の取組

本校の学力課題である算数の基礎的・基本的な知識・技能を定着させるため、昼休みに、主に少人数教室を使用し、児童の実態に応じた問題に取り組ませる。「数と計算」「図形」「測定」領域の基礎的・基本的事項の習熟や、単元テストにおけるケアレスミスフォローなど、低位層のみならず中位層や一部の上位層にもスポットを当て、学力の底上げ・定着を図っている。主に加配教員、少人数担当、主幹教諭、教頭、校長が指導にあたる。



ウ 「算数タイム」の取組

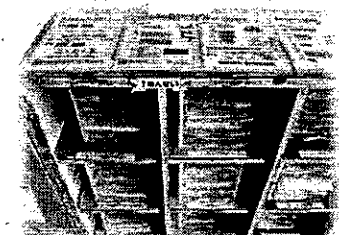
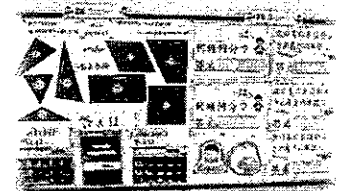
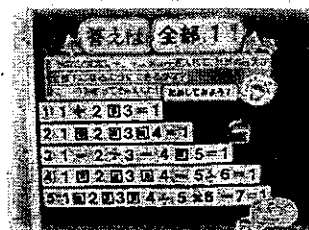
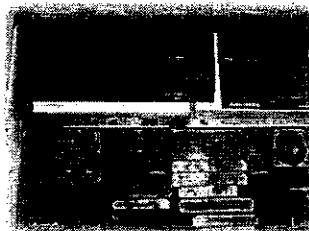


毎週木曜、業前の時間に、既習事項の定着を図るために実施している。内容については、少人数担当、加配教員と各学年担任の教員が相談しながら問題を作成している。また、まとめとしておよそ月に1回「算数検定」を行い、各学期の算数検定平均8割以上を達成した児童に『算数検定優秀賞』を授与して、意欲喚起も行っている。

(4) 学びの日常化・効率化を図る環境整備

ア 教室・廊下掲示

各教室や廊下の壁面に既習事項や算数クイズ等を掲示している。授業においては、児童が前時までの学習に立ち返れるようになっており、児童の思考が途切れることなく、自力解決に取り組める。また、学習室には、学年や学習単元に応じたプリントを用意し、学習内容の定着を図ることができる。



イ 国語辞典の日常化

国語辞典使用の日常化を図る。学習等で、わからない語句があれば、すぐに国語辞典を引き、そのページに付箋を貼っていく。



(5) 教員の指導力向上を目指した学習指導法の研修

ア 外部指導者の指導

- ・全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の活用についての講義
義務教育指導課の指導主事に、スクラム事業の概要説明や全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の活用について指導いただいた。



イ 授業研究会（校内研修）を中心とした指導法の検討

児童が本時のねらいを達成するためにどのような指導法が効果的なのかを研究する。特に今年度は、児童が自らの考え方を交流し合うことや、教師と児童の交流の中からより良い解決方法を見出す練り上げの工夫について、授業提案と協議を行っていった。



3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ア 児童の学習に対しての意欲が高まった。
- イ 様々な学習形態等をとることで、児童が主体的に活動に取り組めるようになってきた。
- ウ 指導力向上研修によって、児童への効果的な指導について、教職員で考えを共有できた。
- エ 加配教員や算数少人数の教員による各学年への補助教材等の蓄積ができた。

(2) 課題

- ア コバトンのびのびシートを活用した研修、指導体制のさらなる充実を目指す。
- イ 個に応じた効果的な指導法の研究を図る。
- ウ 個に応じた指導を確立し、それをどのように学年全体へ広げていくか。
- エ 児童に自主学習の習慣化を図る。

杉戸町学力向上プロジェクトの推進

～未来の創り手となるために必要な資質・能力の育成を目指して～



○教 委 名	杉戸町教育委員会
○所 在 地	杉戸町清地2-9-29
○電 話 番 号	0480-33-1111
○E - m a i l	gakkokvoiku@town.sugito.lg.jp
○ホームページ	http://www.town.sugito.lg.jp

1. 研究主題について

(1) 研究主題

杉戸町学力向上プロジェクトの推進

～未来の創り手となるために必要な資質・能力の育成を目指して～

(2) 研究主題設定の理由

本町の最重要課題は学力向上である。埼玉県学力・学習状況調査等の結果からも、一人一人の学力を伸ばしきれていない現状がある。そこで、昨年度より、「杉戸町学力向上プロジェクト」を立ち上げ、町ぐるみで、新学習指導要領で求められる資質・能力の育成を目指すとともに、児童・生徒一人一人に確かな学力を確実に身に付けさせるための施策を推進することとした。そして、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った日々の授業改善により質の高い学びを実現する授業改革を中心に、下記の5つの共通実践で「未来の創り手となるために必要な資質・能力」を育むために本研究主題を設定した。

2. 研究の実践（町ぐるみでの取組を目指して）

(1) 学力向上プロジェクトリーフレットの作成（目指す授業像の共有化）

標記リーフレットには、学力向上プロジェクトにおける各校での共通実践の5つの柱（①学級づくり・教室づくり、②基礎力・学習スキルの育成、③授業改革、④家庭学習の推進、⑤非認知能力の育成）と、学校と教育委員会が連携して行う事業（①学力向上プロジェクト推進委員会、②学力向上プロジェクト訪問、③学力向上プロジェクト公開授業研究会）についての概要が掲載されている。今年度より新たに「非認知能力の育成」を柱立て、全校共通の重点「GRIT（やり抜く力）」を含めた「非認知能力育成プラン」を各校で作成した。

また、若手からベテランまで全ての教師が「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業を実践するためのポイントや、教師の働きかけや子供の反応・学びの姿が具体的に示された授業スタンダードを掲載した。そして、子供たち一人一人を大切に、学ぶ楽しさや「わかった」「できた」を実感できる授業を進めることができる手立てとした。

(2) 学力向上プロジェクト推進委員会の実施（学力向上に向けた協働化・共有化）

校長が推薦した各学校における学力向上、校内研修等の推進力となる教員が推進委員となり、年に4回実施した。

主な取組としては、各校での5つの共通実践に係る実践計画、中間実践状況、成果と課題を発表し合い、互いに学び合う中で、自校の実践に生かすことができるようにした。また、埼玉県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査の各校での分析結

果を持ち寄り、今後の効果的な対策について話し合い、自校の課題解決に生かすことができるようにした。

(3) 学力向上プロジェクト訪問の実施（見取りの力・研究協議のレベルアップ）

教員の子供の学びを見取る力、子供の学びの姿を核とした研究協議のレベルアップを目指し、町内6校（令和元年度は東ブロック）に教育委員会指導主事等が訪問し、全ての教員の授業を参観するとともに、研究授業後の研究協議会で指導を行った。

(4) 学力向上プロジェクト公開授業研究会の実施（見取りの力・研究協議のレベルアップ）

教員の子供の学びを見取る力、子供の学びの姿を核とした研究協議のレベルアップを目指し、町内3校（令和元年度は西ブロック）が授業（2～3学級）を公開し、町内全ての教員がいずれかの公開授業研究会に参加した。町内小・中学校の全教員が、校種、教科の視点を持ちつつ、子供の学びの姿を中心とした研究協議を行うことは、子供の学びを見取る力、研究協議のレベルアップに結びついた。



【授業の見方・研究協議の方法の説明】



【子供の学びを中心とした見取り】



【研究協議会において意見交流】



【ファシリテーターを中心とした全体協議】

(5) 学習指導員の配置（個に応じたきめ細かな指導）

各小学校に1、2名の豊富な教職経験を持つ人材を配置した。児童一人一人に応じたきめ細かな学習支援を行うことで、児童の学力向上に結びつけるとともに、担任と連携して主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に役立てている。

3 研究の成果と課題

昨年度からの新たな取組である「杉戸町学力向上プロジェクト」であるが、教員一人一人の本事業への理解も深まり、町ぐるみの学力向上推進策となっている。

今後も、教師相互が学び合う機会を通して、「授業構想力」「授業実践力」「子供の学びを見取る力」「研究協議を深める力」を向上させていきたい。

すべての子どもが学ぶ楽しさを味わえるための学習指導の工夫と環境づくり



—意欲的な児童を育てる手立てを工夫して—

- 学校名 杉戸町立杉戸小学校
- 所在地 杉戸町内田2丁目9番28号
- 電話番号 0480-32-0042
- E-mail sugishot@sugito.ed.jp
- URL <https://www.town.sugito.lg.jp/cms/index1241.html>

1 研究主題

(1) 研究主題

すべての子どもが学ぶ楽しさを味わえるための学習指導の工夫と環境づくり

—意欲的な児童を育てる手立てを工夫して—

(2) 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標に「よく考え、すすんでやる子」を掲げ、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指している。しかし学力では所謂「分極化傾向」(註1)が進みよく出来る児童とそうでない児童が存在する。

そこで本校では、国語・算数において、学習が苦手な児童への取組を行う中で、学校全体の学力を向上させようと考え、本課題を設定した。

<註1> 岩波新書『学力を育てる』志水宏吉氏(2005年刊)参照。

(3) 研究の内容

ア 学力実態の綿密な把握 ⇒ 課題把握 ⇒ 個に応じた実践

イ わからない時にわからないと言える学習集団づくり ⇒ 「間違ふ」ことを推奨するクラスづくり

ウ TTや習熟度別少人数指導等、学習形態の工夫 ⇒ 効果が上がる指導形態

エ 学習内容の定着をはかる補充学習 ⇒ 効果的な時間の活用

オ 授業と家庭学習とのリンク ⇒ 家庭で学習する習慣づくりへ

(4) 目指す児童像 「学ぶ楽しさを味わえる子」

低：自分の思いをもち、互いに伝え合いながら学び合える子

中：自分の考えをもち、互いに伝え合いながら学び合える子

高：自分の考えを明確にし、互いに認め合い伝え合いながら学び合える子

(5) 研究の仮説

仮説1 学力実態を綿密に把握し、児童に適切なアドバイスをしたり、学習支援をしたりすれば、児童の学習意欲が向上し、進んで学び合えるだろう。

《方策》

○学力実態の把握・課題把握(個人カルテづくり)

○授業形態の工夫(TT、単純2分割少人数指導、習熟度別少人数指導)

○個別の支援の工夫 ○基礎・基本の徹底 ○問題解決的な学習過程の確立

○伝え合い、学び合う学習の実践 ○振り返りの時間の充実 ○意図的指名

○板書・教材教具の工夫 ○学習集団づくり

仮説2 学習環境を整えたり、授業と家庭学習をリンクさせ家庭学習を定着させたり、学び損じた学習内容を補充したりすれば、児童の苦手意識がなくなり、意欲的に学習することができるだろう。

《方策》

- 座席の工夫 ○国語・算数コーナーの活用 ○読書の充実
- 学習用具が揃わない児童に対する支援 ○学習内容の定着を図る補充学習
- 授業と家庭学習のリンク、家庭学習の定着 ○家庭学習ノートの形式化
- 「親の学習」講座の実施

2 研究の概要

(1) 学力実態の把握・課題把握（個人カルテづくり）

- ・県学力・学習状況調査の結果
- ・学力の伸び
- ・結果考察及び解決の手立て
- ・知能検査・アンケート結果
- ・学習を深める方針
- ・具体的手立て（授業中、授業外）
- ・児童の成長

学年	学期	単元	学習状況	課題	支援策	経過	結果
1年	1学期	算数
1年	2学期	国語
2年	1学期	算数
2年	2学期	国語
3年	1学期	算数
3年	2学期	国語
4年	1学期	算数
4年	2学期	国語
5年	1学期	算数
5年	2学期	国語
6年	1学期	算数
6年	2学期	国語

個々の学力の実態把握を行い、支援計画を立てて取り組んだ。

(2) 指導法の工夫改善

ア 授業形態の工夫

- ・国語はTTで行った。担任と専科で教材研究を一緒に行ったり、支援の対象児童や支援方法を授業前に打ち合わせしたりして、効率的な支援の実施に努めた結果、意欲的に授業に取り組む児童が増えてきた。特に、「書くこと」の単元では、構成や書き出し、文末の書き方、読み手が分かりやすい表現方法などを個別に支援することで、文章全体の見通しをもつことができるようになり、苦手を感じている児童も、その段落で書くべきことを意識して書けるようになってきた。また、語彙の広がりも見られた。
- ・算数は学習内容によって、TT、単純2分割少人数指導、習熟度別少人数指導を行った。算数の習熟度別少人数指導では、普段発言することの少ない児童が進んで発表したり、分からないところが聞きやすくなったりする等のよい効果が見られ、「分かったと楽しい」「もっと解きたい」といった声が聞かれた。また、単純2分割少人数指導では、いろいろな考えを学び合うことができた。
- ・担任と専科で連携を密にし、よりよい授業の実践に努めた。

イ ノート指導

- ・課題・めあての確認と振り返りを毎時間行うことで、一人一人の課題を確認し、指導に活かしていくことができた。
- ・ノート指導を行い、自分の考えだけでなく友達の考えもノートに書き、考えを深めることができる児童も増えてきた。
- ・振り返りを毎時間行い、分かったことやできるようになったことを自分の言葉で書かせたことで、自分の学びを振り返ることができた。また、振り返りの視点を明確化することで、児童の理解度やつまずきのポイント、関心意欲の高さなども明らかになり、指導や支援の改善に生かすことができた。
- ・見本となるノートを掲示板で紹介した。何人かの児童のノートを紹介することで自分も紹介されたいという意欲の向上にもつながった。

(3) 個別の支援の工夫

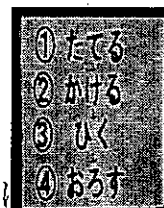
ア 学習中の支援

① 計算の結果を現実場面に即して解釈することが困難な児童に対する支援

3年生の「あまりのあるわり算」の学習では、余りの捉え方を深めるために、箱の中にブロックを入れて、視覚的に余りの処理の仕方を捉えさせた。グループで話し合いながら、商に1を加える必要がある場面があることが理解できた。

② 4年生「わり算の筆算」での筆算の仕方に対する支援

自力解決の困難な児童は、ヒントコーナーにおいて計算の順序「たてる、かける、ひく、おろす」のヒントカードを使い、対話をしながら支援した。どの位に商を立てるかが分からない児童については、「4) 256の56を指で隠し、 $2 \div 4$ ができないから指を右に動かす。次は6を指で隠し、 $25 \div 4$ を考える。今度はできそうなので、・・・」と自分が今やっている計算を視覚化することで、商を立てる位置がはっきりして、十の位に商を立てることができた。



③ 「書くこと」に対する支援

付箋やマップを活用したり、「初め・中・終わり」に分けて書いたりするなど、スモールステップで学習を進められよう工夫したり、書き出し・文末の表現などを話し合い、例示したりすることで、書くことが苦手な児童も自分の力で書き上げることができ、達成感を味わわせることができた。

④ 「読むこと」に対する支援

物語文では心情や行動が分かる文にサイドラインを引き、書き込みをした。支援が必要な児童に対しては、会話文や行動を表している文と一緒に探したり、示したりすることで、どのような叙述に着目すればよいのかが分かるようになってきた。また、説明文では、教科書本文を拡大したものを使って、大事な言葉に線を引いたり、指示語や接続語の役割を確認したりしながら読み進めた。丁寧に読んでいくことで、確実な理解につながってきている。

イ 学習支援教室

○ 4年「たけのこ教室」(昼休み)

学習支援が必要な児童(各クラス5人程度)を対象に毎日行った。管理職、担任外教員、スクラム加配教員がそれぞれの担当児童の指導にあたった。「音読がすらすらできているね。」「計算が速くできるようになったね。」などの称賛を贈ることで、児童は達成感を味わった。どの児童も補充学習を前向きにとらえ、意欲的に取り組むことで自己肯定感を高めることができ、その結果、音読・計算力向上が見られた。予習も行ったため、児童は自信をもって授業に臨めた。



○ 5年「寺子屋」(授業外)

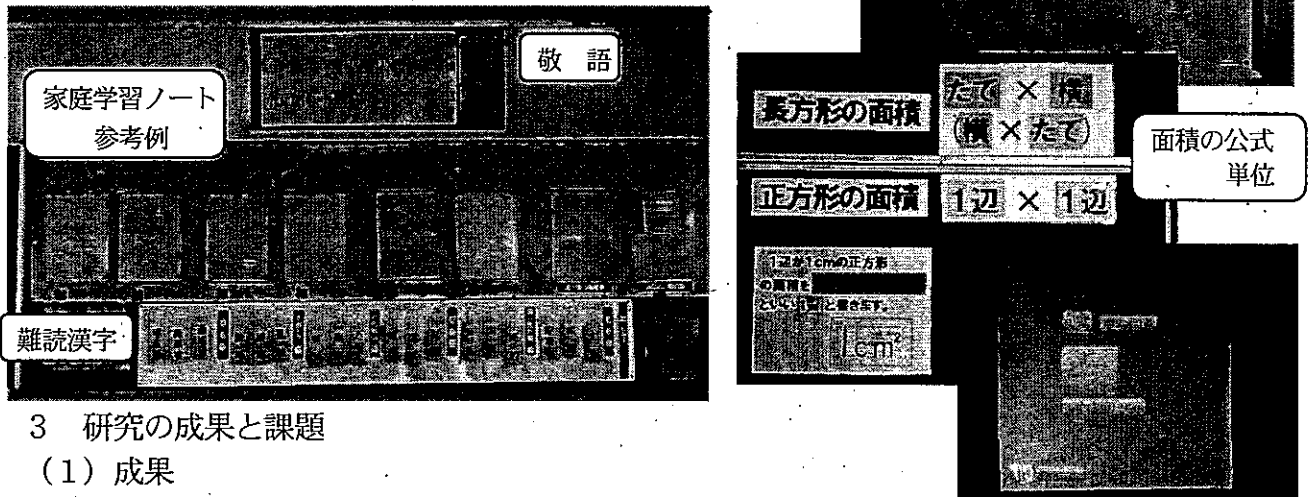
授業内に学習が終わらなかった児童、分からないところがあると来校した児童、また支援が必要だと判断した児童に対して、個別支援を行った。テストの直しや再テスト、習熟プリントなどを実態に合わせて個別や少人数で行うことで、つまづきを早期に解消することができた。

(4) 基礎基本の徹底

- ア 漢字・算数パワーアップタイム
- イ 単元別ワークテスト100点達成に向けた繰り返し指導
- ウ コバトン問題集・復習シートの活用
- エ「家庭学習の手引き」・「家庭学習強化週間」・埼玉県家庭教育アドバイザーによる「親の学習」講座

(5) 研究部会の取組

学習環境部の取組として、国語では、言葉に親しめるように、詩・ことわざ・敬語などを掲示した。算数では、長さ・面積・速さなどの量感を育てる掲示、かけ算九九や公式など覚えてほしい事柄について掲示した。



3 研究の成果と課題

(1) 成果

<平成31年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果より>

- ア 6年生の対象児童は、昨年度4年→5年と学力を大きく伸ばしたが、今年度もさらに伸ばしており、国語、算数とも伸びが2であった。
- イ 5年生の対象児童の伸びは、国語-1、算数1と低かったが、算数の学校平均は4であり、学年全体の学力が底上げされていると考えられる。
- ウ 4年生の対象児童の伸びは、昨年度は実施していないため比較することができないが、学年平均は県平均を国語、算数とも3上回っており、学力は着実につけてきているといえる。

<全体>

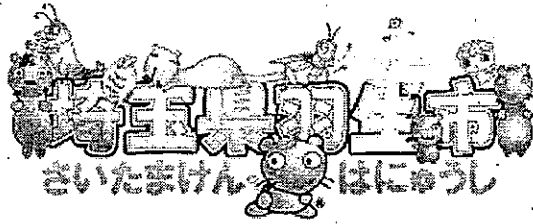
- ア 自己肯定感の高まりが見られ、意欲の向上にもつながった。
- イ 基礎基本の定着が図られた。
- ウ 授業研究会で、個別の支援の研修を行った。研究授業で、対象児童の支援の方法を協議したことで、支援方法の検討・改善・指導力の向上につながった。

(2) 課題

- ア 全ての児童が学ぶ楽しさを味わえるようにするために、主体的な学び、対話的な学びを取り入れた授業改善を行っていく。
- イ 個人カルテを活用して、児童の実態をしっかり把握し、授業内での効果的な個別支援の仕方を工夫していく。
- ウ 授業中の姿勢、聞く態度などの授業規律を徹底し、学びの土台を充実させていく。
- エ 保護者会等を通して、保護者の協力を仰いでいく。

学力向上を目指した「学びをつなげる」授業改善

—学力向上に向けた やる気を引き出す実践共有を通して—



- 羽生市教育委員会
- 羽生市東6丁目15番地
- 048-561-1121
- gakkou@city.hanyu.lg.jp
- http://www.city.hanyu.lg.jp/

1 研究主題

学力向上を目指した「学びをつなげる」授業改善

—学力向上に向けた やる気を引き出す実践共有を通して—

(「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業)

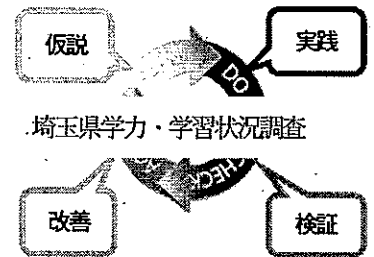
2 研究の仮説

子供たちに対して意識的に学んだ内容(身につけた知識・技能)を活用させ、新たな問題解決を促しながら「未来を生き抜く力」を身につけさせていく必要がある。「知識・技能」がつながることで学びに対する「意欲」も高まると考えられる。各校で学力向上に向けた特色ある取組を展開し、「学びをつなげる」授業実践を学力向上推進委員会で共有し広げることで、子供たちの「やる気を引き出す」よい取組が市内各学校で展開され、学力が向上するだろう。

※「学びをつなげる」とは、子供たちの中にある「知識・技能」の活用範囲を広げ、「知りたい」という意欲を刺激し、「主体的・対話的で深い学び」へといざなうことと定義する。

<羽生市教育委員会の取組>

- 羽生市教育委員会グランドデザイン・学力向上重点7の策定
- 羽生市学力向上推進委員会【9月】(分析法の周知・共有)
- 学力向上学校訪問【9月】
- 「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業における研究・共有
- 羽生市学力アップテスト【12月】(成果の確認と復習の強化)
- 羽生市学力向上推進委員会【2月】(よい取組の分析結果共有)



3 研究の実践

(1) 羽生市全体としてのグランドデザイン・重点項目の設定

羽生市では、毎年「羽生市教育委員会学力向上重点7(セブン)」を見直し、学力アップの施策を充実させてきた。今年度、新たに作成をした「羽生市学力向上グランドデザイン」では、「子どもたち一人一人の学力を確実に伸ばす教育」を目指す4つの視点によるアプローチを掲げ、学力向上に向けた取組を加速させた。今年度の大きな特徴としては、4月の埼玉県学力・学習状況調査と12月の羽生市学力アップテストの連携を強化させ、各校の学力向上策をR-PDCAサイクルで検証していくことである。「R-PDCAサイクル」の詳細は後述する。



(2) チーム埼玉学力向上パワーアップ事業の展開

埼玉県学力・学習状況調査を活用したR-PDCAサイクルの構築

平成30年度までの成果と課題(羽生市教育委員会の施策について)

① 県学力・学習状況調査の結果分析

(Research)

羽生市では、県学力・学習状況調査(以下、県学調)の結果分析を学校と並行して市教委でも綿密に行い、部課長の学力向上学校訪問において各校の取組への指導・助言を行った。分析では、先生方の取組の成果が分かりやすく示され、教職員の意識改革につながった。

② よい取組の共有と授業改善 (Plan-Do)

各校において伸ばしている先生の「よい取組」を共有していくことで、指導法の共有化・継承が進みつつある。各校の計画を基に、特色ある研究を進め、羽生市学力向上推進委員会で共有することでよい実践を広げ、自校の改善に活かすことができるようになってきた。また、羽生市学力向上推進委員会において、各校から集められた「よい取組」を3つの視点(教師の指導・教材教具の工夫・小中連携の視点)に基づき、ワークショップ形式で整理したことにより、各校で活用しやすい内容を洗い出すことができ、市内での共有化を推進している。

③ 羽生市学力アップテストの実施と弱点克服に向けた復習 (Check-Act)

年度内に1年間の取組の成果を振り返り、個々の子供たちの成果と課題を把握し、次年度へ向け弱点克服をしていくために、12月に羽生市の小学校4年生～中学校2年生を対象に羽生市学力アップテストを実施した。1月に返却される結果帳票の分析を通して個々の課題をしっかりと把握し、個別に印刷される補充プリントを基に復習させた。

子供たち一人一人の弱点に応じた補充プリントに取り組みさせることで、個々の課題が克服され、学力のさらなる向上をねらうことができるようになった。

⇒ これらのR-PDCAサイクルを充実させることで、教師の子供の見方が多面的・多角的になってきた。根拠に基づく効果的な指導の工夫を授業に取り入れた授業改善が少しずつ進められている。今後は授業改善に向けたサイクルの深化と市内学校への支援の充実が求められる。



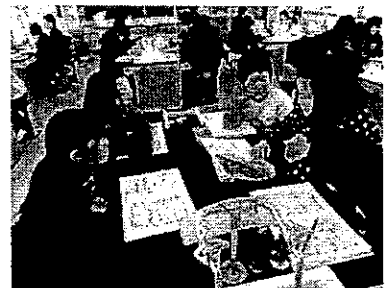
(3) 各校の課題に合わせた授業改善サポート

【昨年度有効性が確認され、今年度も継続する取組】

① 市内学力向上推進委員会の開催 (年間4回)

② R-PDCA サイクルの徹底・強化

・各校における県学調・全学調の分析・改善策の再検討



- ・各校において県学調のよい取組の共有化
- ・指導案への県学調の分析結果の反映と指導の工夫

③ 全国、埼玉県学力・学習状況調査分析「市教委サポート訪問」の実施

○県学調の児童生徒ベースの分析を昨年度は希望校を中心に分析補助を行い、活用のあり方を探った。今年度は、全校を訪問し、市として研究してきた分析の手法を全小・中学校に広げた。また、各校の校内研修（分析）にも参加し、個々のクラスで「子供たちに届く活用のあり方」を協議してもらい、市教委として指導を行った。



④ 羽生市学力アップテスト

- ・羽生市学力アップテストの活用・伸びの確認（小4～中2 小：国・算 中：国・数・英）・学び残し0(ゼロ)へ

【今年度新規の取組】

市の分析帳票を作成（試作）

最上位
上位25%
中間
下位25%
最下位

学力層別分析
帳票26と連動

個人番号⇒氏名にする

学力の伸びが 0以下に赤色をつける
5以上に緑色をつける
条件付き書式で学びの状況を可視化する

配慮が必要な子については、昨年度・今年度の授業方略・非認知能力の分析をしていく

学力分析帳票を改良し、「個人氏名」「学力層別分析」と「学力の伸び」を可視化し、子供たち一人一人の状況を明確にした。課題のある児童・生徒が一目瞭然となり、学習方略・非認知能力の結果を加味することで不足している力を把握することができる。どの子に視点をあてて「コバトンのびのびシート」を作成していくかの根拠資料にもなる。

重点校を中心とした授業改善の手立ての研究・他校への広がりを目指す

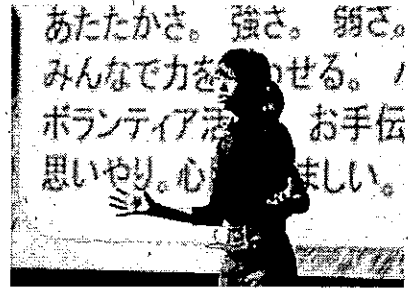
県学調の児童生徒ベースの分析は、より細かく分析を行うことによりさまざまな可能性が広がる。今年度は羽生北小において「学力層別のどこにターゲットを絞った課題を設定するか」教師が考える取組を行った。協議会では「指導の結果、適切に子供たちが学んでいたか」について学力層別に数名をピックアップし、分析した結果を交流し、手立ての有効性を検証した。同じ発問でも学力の違いによりとらえ方に違いがあることがわかった。「学びをつなげる」ために有効な手立てをピンポイントで検討することができた。今後は、羽生北小の成果を市内全校に広げていく。

到達させるべきゴールを明確にした授業改善（授業改善の視点のリーフレット）

○授業改善へ向けた第一歩として、授業者が児童生徒に対して、到達させるべきゴールを明確にしながら授業を組み立てていけるように市教委として学力向上推進委員会と連携してリーフレットを作成してきた。来年度4月に配布できるよう準備していく。

(4)その他の取組

- ① 全国プレゼンテーションコンクールin 羽生の開催
～プレゼンテーション力(思考・判断・表現)の向上を目指して～
- ② 学力アップ羽生塾による個別指導の実践
土曜(年間25回)開催 場所:市内3公民館

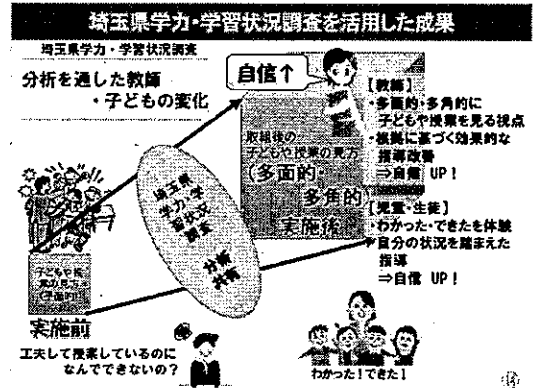


【全国プレゼンテーションコンクールin 羽生】

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 市教委が具体的なビジョンを示したことで、各校の取組がより精選され、市として目指す「学力向上」に向け、各校の工夫された取組が活性化してきた。
- 市教委サポート訪問を行うことで、市内の学力向上への意識を高めるだけでなく、効果的な取組も互いに取り入れ合いながら共有化することができている。
- 県学調の具体的な分析に基づき、明確になった課題を克服するための「効果的な取組」についても、小・中学校別に羽生市版の「よい取組事例集」を作成した。より改善された実践を再度共有することで、さらによりものへブラッシュアップするよいスパイラルへと移行することができている。現在各校において引き続き「学びをつなげる」授業改善を具現化していけるよう市教委としても支援を続けていく。



(2) 課題

- 学力向上は学校だけの課題ではない。保護者やコミュニティ・スクール等を活用し、地域・保護者と連携しながら進めていくことも必要である。そして各校の取組を教育委員会として支援していく必要がある。



「学びをつなぐ」授業改善を目指して

【授業改善トータルシート】おこゆうの子

日々の授業の質を高める！ 見方を改める！ 形を変えよう！
「はにゅうの子」を伸ばす教育

- は**：【教師の】発話量(説明)を減らしましょう！
授業中の発話量T(教師) - C(子ども) - T - C...と一問一答に陥っていないですか？
T(教師) - C(子ども) - T - Tと説明しすぎていませんか？教師の発話を強力減らし、子どもたちの意見の芽から授業をつくりましょう。意見をつなげるためにはどのような発問(発問実践)が必要でしょうか？
- に**：日常生活とのつながりを重視しましょう！
子どもと日常生活の関わりをつなげる授業を目指しましょう。日常生活の場面から授業に入ることも大切です。子どもたちの興味・関心を高め、主体的な学びを促しましょう。
- ゆ**：授業前後の「一問」を意図した発問をしましょう！
発問として授業の前後をしっかりと設定し、授業のゴールを明確にしつつ、子どもたちに必要と見込めるような発問を行きましょう。
- う**：うまく意見(考え)を引き出し、対話を紡ぎましょう！
子どもの考えを聞き取りどのように発展させるか発問の工夫を凝らしましょう。(発問の)予選される子どもの反応が想定に合っていないか？子どもの意見(考え)を引き出す「発問」や質問を認める「問い返し(問い返し発問)」を効果的に使しましょう！
- の**：能力を伸ばす+の声かけを普段から意識しましょう！
(いい意見をした子)「〇〇さんの見方はおもしろいね。」「とてもいい考えだね。」「という見方・考え方を全員へ広げる声かけを意識しましょう！また、次へつなげる声かけも意識しましょう。(例:〇〇さんからも見つけられるかな？)」「(例:いい考えを話してみんなに教えてあげよう)」「(xだからではないんだよ)(xだね等々)。
- こ**：子どもの言葉で授業の振り返りをしましょう！
授業の子どもと振り返り時間は必ず設け、クラス内のいろいろな意見から振り返り上げ、全員の「ほめめ」や子どもたちへの個人の家書やメッセージ(お礼状等)。



学ぶことの楽しさと充実感を味わわせる学習活動の工夫

－ 基礎・基本が確実に身につき、自分の言葉で豊かに表現できる子を目指して －

- 学校名 羽生市立羽生北小学校
- 所在地 羽生市北2-1-1
- 電話番号 048(561)0058
- E-mailアドレス hanyukita-e@edu.city.hanyu.saitama.jp
- ホームページ <http://www.city.hanyu.lg.jp/school/hanyukita/>



1 研究主題

学ぶことの楽しさと充実感を味わわせる学習活動の工夫

－基礎・基本が確実に身につき、自分の言葉で豊かに表現できる子を目指して－

(1) 研究主題設定の理由

本校は「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業の羽生市における重点校として3年目となる。昨年度までは算数を中心に研究を進めてきた。今年度の県学力・学習状況調査の結果を分析したところ、どの学年でも算数科の県の平均正答率を超えることができ、「学力の伸び」も見られた。一方、国語科の読む力に課題があることが分かった。具体的には、文章問題に苦手意識をもつ児童が多く、文章を正確に読み取って理解したり、登場人物の心情を読み取ったりする問題の平均正答率が低かった。

そこで、県学力・学習状況調査の結果を踏まえ、国語科において読む力を中心に高め、文章から根拠をもって正確に読み取ることができれば、自分の言葉で豊かに表現し、学習の楽しさや充実感を味わうことができるようになり、学校教育目標の「～なぜだろう～調べ・まとめ・表現できる子」の実現に寄与すると考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究の仮説

【仮説】(目指すべき児童像)

文章を正確に読み取り、根拠をつけて話したり書いたりできれば、基礎・基本が確実に身につき、自分の言葉で豊かに表現できる子になるであろう。

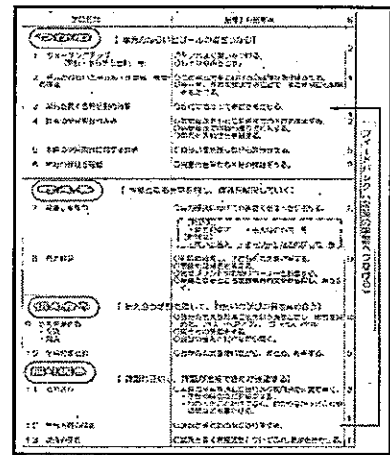
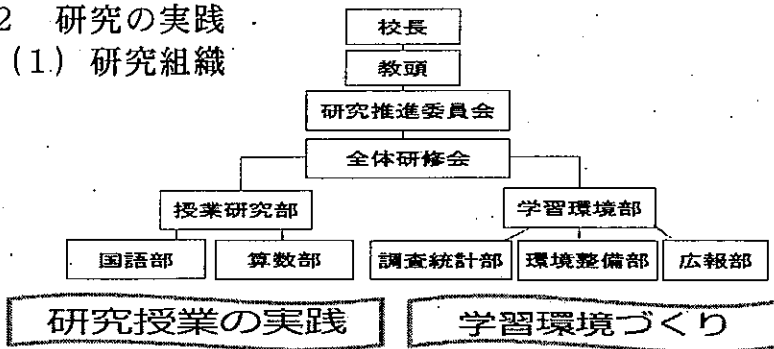


研究構想図を作成し、今年度の研究の方向性を職員に示し、一目で研究の概要が分かるようにした。



2 研究の実践

(1) 研究組織



授業の流れ (国語)

(2) 授業研究部

ア 国語部の取組

① 授業の流れの統一

- ・ 毎時ほぼ同じ流れで授業を行うことで児童が見通しをもって学習に取り組めるようにした。
- ・ 「授業の流れ」をベースに単元によって工夫した指導ができるようになった。

② 素読の励行

- ・ 文章の意味を考えずに声に出して読むことで脳の前頭前野の活性化による学習効果の向上を期待して行っている。
- ・ 朝の会において全学級で毎日行うこととした。
- ・ 保護者や地域の方々の前での発表の場を設け意欲付けを図った。



朝の会での素読の様子

③ 書く力を高める活動

- ・ 授業内での「振り返り」を充実させるため、低・中・高のブロックごとに書く視点を変え、ステップアップして書けるようにした。

	低学年	中学年	高学年
書く内容	①授業で行ったこと ②感想	①授業で行ったこと ②学んだこと (できた、分かった、分からない)	①授業で行ったこと ②学んだこと (できた、分かった、分からない) ③さらに学びたいこと、疑問点、普段の生活で活用できること

- ・ 「週末作文」と題し、テーマや条件を設け、作文や絵日記を毎週末、家庭学習に出すことを統一して行うようにした。

④ 読む力を高める活動の工夫

- ・ 教科書の文をプリント化し、答えの根拠となる言葉にサイドラインを引いて読み取ったり、主人公の気持ちの変容を矢印でつないだりしやすようにした。
- ・ 校内に「国語プリントボックス」を作成し、どの学級でも好きな時に「物語文」「説明文」「詩」の文章問題を解けるようにした。

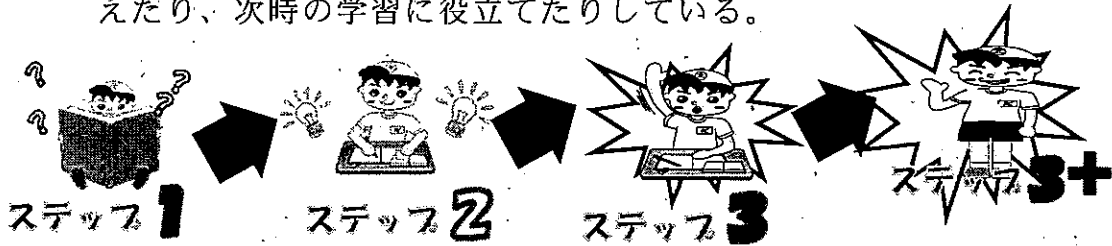
⑤ 読書の推奨

- ・ 図書室以外で本に親しめる「読書の森」を新設した。
- ・ 年3回（6月、11月、2月）の読書月間を実施した。
- ・ 校長に任命された「図書貸し出し倍増特命担当」の教員を中心に本の貸出数を増やし、10月現在で昨年度比+1.6倍になった。
- ・ 「ハートフルデー」と称し、月に1回、宿題を出さずに家庭で本を集中して読む日を設定した。
- ・ 担当が司書教諭と協力して、並行読書を推進した。

イ 算数部の取組

① 北小オリジナル「わかるステップ1・2・3・3+」

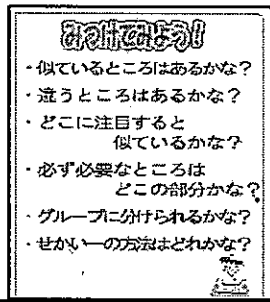
- ・ 本時の学習課題に対する理解度を自己判断するものとして活用している。これは、授業内で自力解決時と振り返り時の2回自己評価させ、授業内で児童は自分の変容を知ることができるものである。児童の記述した数字を基に理解度を把握し、的確な指導・助言を与えたり、次時の学習に役立てたりしている。



- 【ステップ1】 どうやって解いたらよいか思考している状態
- 【ステップ2】 解き方が見つかって答えが出た状態
- 【ステップ3】 言葉や図などを使って解き方を説明している状態
- 【ステップ3+】 複数の解き方で考え、共通点や大事な部分を見つけ、自分でまとめられる状態

② 練り上げの仕方の工夫

- ・ 発達段階に応じた練り上げの仕方の例文を記した「みつけてみよう」の掲示物を活用し、練り上げを充実させ、まとめへと確実につなげるようにした。

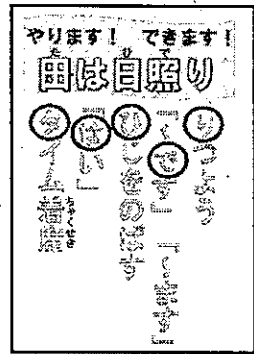


みつけてみよう!

ウ 学力向上を支えるその他の取組

① 学習規律の徹底

- ・ 「田は日照り」を合言葉に全学級で全項目を100%にするため日々取り組んでいる。学習規律が整い、集中して授業に取り組む児童が増えた。



「田は日照り」掲示

② 自主学習の充実

- ・ 月に1回、各学年の自主学習の仕方が上手な「マイマイ名人」を選び、その名人を表彰する。名人に表彰状を渡して称賛し、そのノートのコピーを掲示している。

(3) 学習環境部

ア 調査・統計部

- ① 児童への国語の意識調査
- ② 素読内容の選定

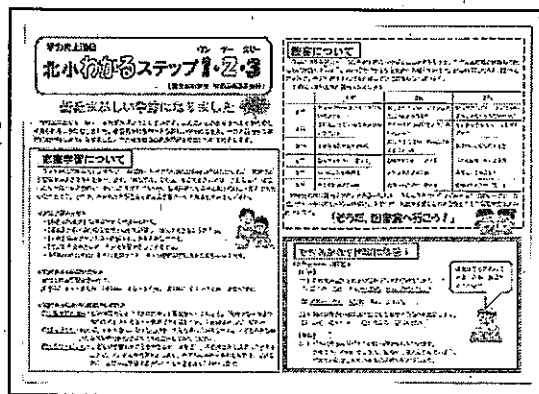
学習環境部では、授業研究部で依頼された研究で使う資料や掲示物などを各部で分担して効率的に作成している。

イ 環境整備部

- ① 校内の学習掲示物の作成
- ② 読書コーナー「読書の森」の新設
- ③ 学習プリントの印刷

ウ 広報部

- ① 月1回の学力向上通信の作成
- ② 国語の意識調査結果のグラフ化
素読内容の電子化



「学力向上通信」で保護者に啓発

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ア 授業内で意図的に書く機会を設けたり、振り返り活動や週末作文で書く活動を取り入れたりした結果、書くことへの抵抗感が減り、意欲的に文が書ける児童が増えた。
- イ 今年度から国語科の研究を重点化し、外部の先生から御指導をいただき、KJ法による協議を積み重ねた結果、国語科の指導力が向上した。
- ウ 「田は日照り」の合言葉が教員間に浸透した。その結果、教員の意識が変わり、児童の学習規律も整い、授業開始から終了までの45分間を落ち着き集中して取り組めるようになった。

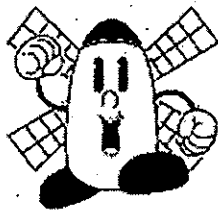
(2) 課題

- ア 今年度までの研究や家庭学習を通して、学力が高まった児童とそうではない児童との間の学力差が開いてしまっている。
- イ 「読む力」を高めるためにはどういう取組をすればいいのか研究の途中であり、これからも研究を進めていく必要がある。

(3) これからの取組

- ア 今年度から研究を始めた「読む力」の向上に係る取組を、PDCAサイクルで検証しつつ、改善を図っていく。
- イ 算数の授業では、TTや少人数指導での効果的な指導法の模索、国語の授業での支援方法についても検討し、低位の児童に対する支援を考えていく。
- ウ 基礎的・基本的な学習内容が定着しつつある今、次のステップとして活用問題に取り組ませ、より高い学力を身に付けさせる。
- エ 語彙力を増やすための活動を考え、児童の表現力を高めていく。

豊かな文化の担い手と思いやりのある心をはぐくむ松伏の教育



松伏町マップー

一心豊かにたくましく生きる松伏の子の育成ー

- 教委名 松伏町教育委員会
- 所在地 松伏町大字松伏2424番地
- TEL 048-991-1864
- E-mail kyosomu@town.matsubushi.lg.jp
- ホームページ http://www.town.matsubushi.lg.jp/

1 研究主題

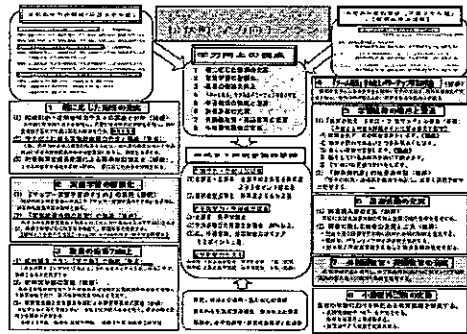
豊かな文化の担い手と思いやりのある心をはぐくむ松伏の教育
ー一心豊かにたくましく生きる松伏の子の育成ー

2 研究の実践

(1) 学力向上に関わる取組

ア 松伏町学力向上プランの作成

全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査、松伏町学力テスト、児童生徒の意識調査等の分析結果をもとに、毎年度右のような「松伏学力向上プラン」を作成している。その中には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する取組も明記している。



イ 授業の約束 5校は一つ 松伏っ子の定着

授業の約束を作成し、小中学校の全クラスに掲示し児童生徒に意識付けを行っている。また、毎年度1月に、この内容に関する児童生徒アンケートを実施し、結果の分析を行い、次年度の重点項目を決めて、確実な定着に取り組んでいる。



ウ 松伏授業プランの徹底

1時間の授業の時間配分や流れ（つかむ、考える、深める、まとめる、振り返る）を示し、町内の研究授業や年次研修等のあらゆる機会に松伏授業プランに沿った指導・支援を行っている。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、

- ①短く、課題解決したくなる導入の工夫
- ②本時の課題（めあて）を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示
- ③主体的に課題解決できる時間を確保
- ④協働的な学びの時間を確保

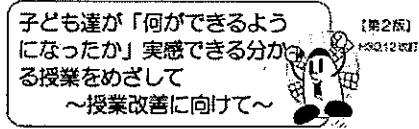
導入	つかむ	考える	深める	まとめる	振り返る
<ul style="list-style-type: none"> ○本時の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 ○本時の学習の課題(めあて)をノート等に記入する ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 ○本時の学習の課題(めあて)をノート等に記入する ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 ○本時の学習の課題(めあて)をノート等に記入する ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 ○本時の学習の課題(めあて)をノート等に記入する ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 ○本時の学習の課題(めあて)をノート等に記入する ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示 ○本時の学習の課題(めあて)をノート等に記入する ○本時の学習の課題(めあて)を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示

「1単位時間(5つかむ～を振り返る)」で実施する授業
児童生徒が分かる喜びを実感できる授業へ

- ⑤課題（めあて）に沿った学習のまとめ
- ⑥振り返りを文章で書くこと

以上の項目について、繰り返し指導を行っている。町内全小中学校の指導案にも、つかむ等の流れが明記されている。

平成30年12月に第2版を発行し、1単位時間で①～⑥まで完結する授業実践を推進している。



松伏町の児童生徒の学力向上に向け、5校が1つとなり、共通理解・共通行動をお願いするため、平成28年度「松伏授業プラン」を作成しました。その結果、教員間の団体の熱心な指導により、授業の質について定着が望まれる一方で、あらたな課題も見つかりました。次の点を整理した授業改善を認っていただき、子ども達が「何ができるようになったか」実感でき、分かる授業を実践していただきますようお願いいたします。

- 松伏町の授業の課題と対策
- 導入の時間短縮、7分を過ぎてしまう。まためあて振り返りまで1時間の確保が難しい。
 - 1 開始の時間をどのようにメリハリをつけておこなうかを検討しよう。
 - 本時の学習の整理（めあて）やまとめが簡潔に書けない。
 - (1) この2つについては、切字や書き出し、ノートに記入を奨励しよう。
 - (2) 本時の学習でどんなまとめを書きたいかを考えて、授業に臨もう。120秒以内でまとめをまとめること、このまとめを子どもたちが帰省できる学習の整理（めあて）をまとめよう。
 - (3) 書き出しの整理（めあて）は、授業自体ではおぼろげに、授業後の振り返り（めあて）でまとめることに取り組んでほしい。
 - 振り返りの文章で書かれていない。整理ができていない。
 - 振り返りは、子ども達が「何ができるようになったか」を自己評価し、進捗感や自己肯定感の基的定着の時間とする。振り返りができず、120秒以内で振り返りできるように書くことも必ず文章で書かせるようにしよう。
 - 授業態度で、子どもが主体的に授業に取り組んでいない。
 - 主体性・対話的で深い学びになるように、まず教材の理解ができるように、できるだけの準備をしよう。そして、子ども達が学び合う時間を多く、積極的に参加しよう。
 - 各グループの話し合い、個人の発表を促す。
- ※ 実施例 「120秒以内の振り返り」

エ 松伏町小・中学校学力調査の実施

小学校1～4年生は国語と算数、小学校5・6年生は国語・算数・理科で実施。中学校1・2年生は5教科で実施。中学校3年生に対しては東部テスト1回分を補助している。学習の定着度や学力の経年変化を捉え、児童生徒への支援の手立てや教員自身の授業改善に役立てている。

オ 松伏町学力向上推進委員会の実施（年3回の実施）

全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査、松伏町小・中学校学力調査の三つの調査の実施をとおり、児童生徒の学力や学習状況を把握し、それを教育指導の充実や授業改善等に役立てるなど、教育に関する継続的なPDCAサイクルを確立する。また、各学校の学力向上の取組等を発表し、共有化を図っている。

松伏町学力向上推進委員会 2 全国学力・学習状況調査結果の分析

1. 国語

調査項目	松伏町	埼玉県	全国
1. 国語の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	79.0	76.7	69.4
2. 国語の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	36.8	43.5	26.5
3. 国語の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	82.6	88.4	88.8
4. 国語の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	69.3	67.0	68.2
5. 国語の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	72.5	72.6	73.0

2. 算数

調査項目	松伏町	埼玉県	全国
1. 算数の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	66.5	66.2	71.2
2. 算数の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	33.1	23.1	20.2
3. 算数の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	39.5	41.1	41.9
4. 算数の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	42.5	43.5	47.5
5. 算数の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	72.9	74.8	78.9

3. 理科

調査項目	松伏町	埼玉県	全国
1. 理科の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	84.6	81.7	83.1
2. 理科の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	59.3	65.1	61.7
3. 理科の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	51.2	42.4	47.0
4. 理科の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	-	-	6.0
5. 理科の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	-	-	8.0

4. 社会

調査項目	松伏町	埼玉県	全国
1. 社会の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	35.4	41.0	43.0
2. 社会の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	48.5	52.0	53.1
3. 社会の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	40.6	38.8	50.1
4. 社会の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	22.7	25.0	31.1
5. 社会の基礎知識について調べたこと(教科書や辞書などから調べたこと)	68.3	72.5	74.6

カ 教育支援員の配置と教員の負担軽減（教材研究の時間の確保）

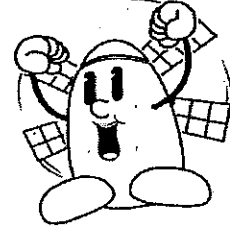
町内小中学校5校に町費採用による独自の教育支援員16名（1日7.75時間、年間190日）を配置し、TTや少人数指導、習熟度別学習等に活用するなど、個に応じたきめ細かな指導を展開している。教育支援員は、授業中の支援の他に、プリントやテストの採点、教材・教具や掲示物の作成等教員の事務的な作業も担い、教員の負担軽減となっている。



(2) 教職員の資質向上に向けた取組
ア 指導主事の学校訪問による支援

1年次から3年次の教職員及び臨時的任用教職員は全員、4年次から9年次の教職員は希望者に対し、年次研修を実施している。「松伏授業プラン」の実現を基本とした授業改善、基礎・基本の徹底、学力の向上の視点に立った学習指導方法や学習規律・生徒指導等についての支援・助言の機会としている。また、校内授業研究会や校内研修等においても支援・助言を行っている。

令和元年度
松伏町教育委員会
教職員年次研修
～指導資料～



すべての児童生徒が「分かった」「できた」と実感でき、教師・児童生徒が達成感のある学級・授業づくりをめざして！

イ 授業力向上の推進

本町では、年次研修の指導者として町内の各小・中学校から推薦していただいた中堅、ベテラン教員を積極的に活用している。指導方法の継承や若手教員の授業改善などにつなげている。また、指導に当たる教員も刺激を受け、自身の授業改善へとつながることができる取組となっている。

ウ 町委嘱による研究の推進

町内5校の学校に対し、順番に2年間の研究委嘱をし、学校課題研究の推進を支援している。委嘱2年目には、町内の全教職員が参加のもとに研究発表会を行うことで、研修を深めるとともに、小中連携を図る機会となっている。

3. 分かる授業づくりのポイント（松伏授業プランの活用）
※活動が一歩の発展をするところは「授業」である。
（語彙を指導ではない）

- 【ポイント0】 教材研究をしっかり行う。
→ 学校や学年を単位とする。児童生徒の反応を予測する。授業の準備等を慎重に行う。
- 【ポイント1】 必要事項のある実践設定をする。
→ 問いを投げ出し工夫をする。問いを課題につなげる実践をする。まためから思いついた課題を設定する。
- 【ポイント2】 解決の見通しを持たせる。
→ 方法・内容の見通しを持たせる。ほめる・なめる意図を持たせる。学習の役割を認める。
- 【ポイント3】 全ての児童生徒に考えを持たせる。
→ 個別プリントを活用する。互いの意見や考えを伝え合う。話し合いをする。前席と後席をわけての意見交換をする（座席的・目的的）。自分の考えを伝えられるように促す。
- 【ポイント4】 書面記載（図解や文字）を充実させる。
→ グループで話し合い、ホワイトボード・付箋の活用は、児童生徒の考えによる発展を促す。発表紙を記入して発表内容を共有する。
- 【ポイント5】 やる気を引き出す実践をする。
→ 安心して前進できるように、自由に発言できる学級の雰囲気をつくる。授業のやり直しを工夫する。一部の子どもだけが得意にならない。教師の指導は授業時間（時間外）に児童生徒が学習できるコーディネーター。
- 【ポイント6】 まとめと振り返りを行い、学習内容を定着させる（P12）。
→ 児童・生徒の成長を促すために行う。自分の学び（自分が分かったか、何ができたか、今後どうするか）を自分のことばで表現する機会を設けることができる時間を与える。疑問や問題について授業の振り返りをする。
- 【ポイント7】 1時間の思考が促される準備をする（P13）。
→ 板書表示を活用し、板書の「壁」を認識する。ノート指導（文字で学ぶ、正確に）を認識する。

エ 松伏町教育研究会への支援

教職員で組織された研究会に対し、補助金を交付している。各教科部会、各領域部会では、校種を越えての授業研究会や研究協議が行われている。本町の小中連携を推進する大切な組織となっている。

(3) 滑らかな学校間接続に関わる取組
ア 保幼小連携の充実

- ① 保幼小連携授業研究会・連絡協議会を実施（年3回）
 - ・ 1学期：小学校1年生の授業を参観
 - ・ 2学期：幼児教育施設（幼稚園・保育園等）の授業を参観



- ・ 3 学期：1 年間の反省、次年度に向けて

② スタートカリキュラム作成委員会の実施（年 1 回）

町独自のスタートカリキュラムを考案し、平成 24 年度から実施をしている。よりよい接続にするため毎年度改善を図っている。

③ 交流会の実施（年 1 回）

卒園する保育園児や幼稚園児を小学校に招き、小学生と一緒に 1 年生の教室を使用して勉強をしたり、レクリエーションを行ったりしている。

イ 小中連携の充実

① 児童生徒の交流事業

- ・ 中学校へのガイダンスを、中学生が企画、運営、実施。
- ・ 小学校夏季学習会へ中学生がボランティアとして参加。
- ・ 町内小・中音楽会（合唱）の実施。

② 教職員間の連携事業

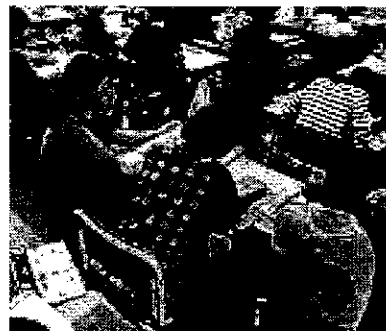
- ・ 学校公開週間における小中間の訪問、授業参観や出前授業や情報交換会の実施。
- ・ 合同夏季研修会の実施。
9 年間を見越した教科指導の円滑な接続について協議し、その結果を実践している。
- ・ 松伏町教育研究会での授業研究会、研究協議の実施。

3 成果と課題

本町の最重要課題は、学力の向上である。学力を向上させるには、本町の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していくことが最も大切なことであると考えている。そのため、町教育委員会作成の「松伏授業プラン」を学校訪問等で積極的に推進してきた。結果として、授業計画を見直し、児童生徒の話合い活動を効果的に取り入れるなど主体的な授業実践へとつながってきた。

今後も、本町の児童生徒の状況、教員の状況を的確に把握し、必要に応じて授業改善へとつながる支援や指導を行いながら、未来の松伏町を支える心豊かでたくましい児童生徒の育成を、目指していきたい。

また、各校の授業実践を家庭や地域に積極的に発信し、保護者や地域人材等を活用・連携しながら推進していきたいと考えている。



学ぶ喜びと楽しさを感じ、確かな学力が身についた児童の育成

— 数学的活動の充実と学ぶことの楽しさや充実感のある学習展開の工夫 —



- 学校名 松伏町立松伏小学校
- 電話番号 048(991)2238
- E-mailアドレス matusyo@educet.plala.or.jp
- ホームページ <http://matsubushi.ed.jp/matusyo/>

1 研究主題

学ぶ喜びと楽しさを感じ、確かな学力が身についた児童の育成
～ 数学的活動の充実と学ぶことの楽しさや充実感のある学習展開の工夫 ～

(1) 主題設定の理由

本校では、平成27年度より松伏町教育委員会委嘱を受け、特別活動を中心に研修に取り組んできた。その成果として、自分本位の考えでなく、相手の立場も考えて行動できる児童が増加した。また、高学年を中心に、相手の間違いを責めず相手を認める等、自己決定ができるようになった児童も増えた。

しかし、その一方で、本校の学力に視点を当てると、全国学力・学習状況調査では、平成28年度で全国正答率よりも約5%低い結果となった。

この結果を受け、平成29年度より算数科を中心として確かな学力を身につけさせたいと取組を進めてきた。そこで、特別活動で培ってきた「主体的に発言できるよさ」を生かしつつ、算数科において、「分かった」「できた」という経験ができる機会を増やせば、進んで学習するようになり、学力の向上につながるだろうと考え、本研究主題を設定した。

さらに、平成29年度より「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業の指定校として、「コバトンのびのびシート」等を活用し、児童一人一人の学力を伸ばす取組も推進してきた。

その結果、平成31年度全国学力・学習状況調査では、全国の平均正答率にあと2%と迫った。

学年		国語			算数・数学		
		H30 字カレ レベル (平均)	H31 字カレ レベル (平均)	昨年 からの 字カレ 伸び	H30 字カレ レベル (平均)	H31 字カレ レベル (平均)	昨年 からの 字カレ 伸び
5年 (4年-5年)	埼玉県	6-C (1.6)	6-B (1.7)	1	5-B (1.4)	6-B (1.7)	3
	松伏小	5-B	6-C	2	4-B	6-C	5
6年 (5年-6年)	埼玉県	6-A (1.8)	7-B (2.0)	2	6-A (1.8)	7-B (2.0)	2
	松伏小	7-C	7-A	2	6-C	7-C	3

【本校の学力レベル】

	国語		算数	
	県平均	松伏小	県平均	松伏小
5年	51.2	64.5	79.3	91.1
6年	73.5	75.9	70.8	76.7

【伸びた児童の割合】

(2) 研修の内容

ア 児童の学習意欲を高める工夫

- 自分の考えを明確に持てる問題提示・発問（めあて・課題）の工夫
- 考えたことを全体に広げる学習の場の工夫
- 学習の振り返りを大切にし、学習内容の確認や自己評価の工夫
- 児童の自己肯定感を高める指導の工夫

イ 児童の学力の個人差への対応と学力の長期的で確実な定着

- 「学習支援カルテ」を利用した児童の実態把握・PDCAサイクルの確立

- 朝学習等を活用した、確かな学力を身につけさせる指導の工夫
- 家庭との連携を図った、家庭学習の取組方法の工夫

2 研究の実践

(1) 学年部会

- 研究仮説を設定し、仮説に沿った研究・実践を推進する。
- 学年内で1つの研究・先行授業と一人一回公開授業を行う。
- 学年内で、先行授業を実施し、授業研究・学習支援カルテ部を交えて話し合い、指導法の工夫・改善を図る。

(2) 専門部会

ア 学習支援カルテ部

- 学習支援カルテ「コバトンのびのびシート」の作成と活用
- カルテを児童全員分印刷し、個別面談時に保護者に説明
- カルテ対象者を中心に、T2による支援

専門部会【学習支援カルテ部】

①コバトンのびのびシートの活用

- ・学期末に記入
- ・個別面談で活用
- ・記述欄の書き方

◎できる事

◎問題

◎大層よく取り組む

(学年 担任名)

○自分の考えはきちんと言うことができる。

●自分の考えを書くことは支援が必要。

●漢字も所定の多い漢字は何枚練習しても書くことは難しい。

(学年 担任名)

○がりがり丸は時間をかけて言うことができる。

●言葉の活動全般で支援が必要。

●大層よく取り組むが、考えと理解することができた。

(学年 担任名)

●人の話を最後まで聞くことは難しい。

●分からないことがあるとすぐに諦めてしまうことがある。

【共有したい事項】

- コバトンのびのびシートの説明の仕方を話し合い、全職員で共通理解を図った。

イ 授業研究部

- 事前授業の参観及び主体的に取り組むための問題作りの検討
- 主体的に学ぶための発問・活動の検討
- 学ぶ喜びに向かうための導入の工夫

ウ 調査研究部

- 全国、埼玉県学力・学習状況調査の分析
(解答用紙から、問題別調査結果・調査結果概況から)
- 全国と本校との比較から、課題を把握する
- 調査検証部との情報交換

エ 調査検証部

- 調査研究部から出された分析結果を基に朝学習プリントを作成
- 学力を伸ばした実践を紹介する「のびのび通信」の発行
- 朝学習で行う「検証テスト」の作成

オ 人間関係構築部

- 家庭生活に関するアンケートの作成・実施
- 学習だより「はなまる」の発行・改善
- 研究授業の実施・学級活動の流れ、グッズの使い方確認
- 特別活動マニュアルの作成・活用

家庭生活に関するアンケート

年 級 名 氏 _____

1日目の担任(調査担当)で、自己研究と授業改善の発展について考えました。以下のアンケートはご家庭での子どもの関わりが深まりました。お褒めの言葉をいただければ幸いです。ご家庭の状況に合わせてお返事ください。

お返事先は _____

松伏小

学級活動マニュアル

調査内容

調査① 親子が一緒に楽しむ時間や活動はありますか？


調査② お子さんの話を、時間を取って聞くようになっていますか？

調査③ お子さんとの関わり方について話をしていますか？

調査④ お子さんのお話を聞いていることについて、お褒めの言葉をいただいていますか？

調査⑤ お子さんの得意なことを褒めていますか？

(休日はぜひ「食事・睡眠・休養」など)



【学級づくりのために】

3 研究の成果と課題

(1) コバトンのびのびシートの活用

コバトンのびのびシートの見方や説明の仕方について、部会で話し合い、全職員に広め、共通認識で保護者への説明ができるようにした。個別面談時に保護者に説明することで、家庭にも児童の伸びや、学習への関心を高めることができた。

また、カルテ対象者を中心に、昨年度までの伸びを踏まえ、今年度の指導に生かすようにした。T2による様々な支援を行うことで、基礎学力の向上につながったと考えられる。

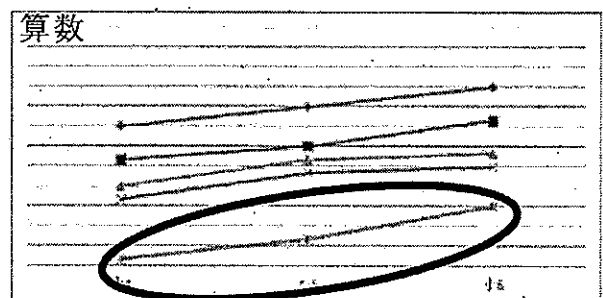
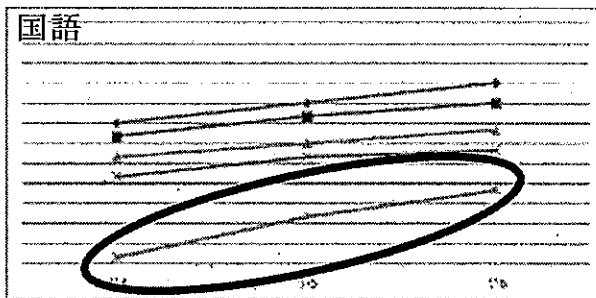
4、5、6年生の先生方へ

学習支援カルテ部 統合

個別面談で「コバトンのびのびシート」(左半分)についての説明をお願いします。
 ・4月11日(木)に実施された埼玉県学力・学習状況調査の結果であることを伝える。
 ・シートはその場で見せ、保護者には渡さない。(真の方針だそうです)

①伸びを伝える。()の中は標準平均の伸び
 →「学力レベルの変化」のグラフに対応(学力レベル1～Aから9～A)

②質問紙調査については、時間があれば一番伸びた点と課題点を伝える。
 →「学習方略と非認知能力の変化」の棒グラフに対応。



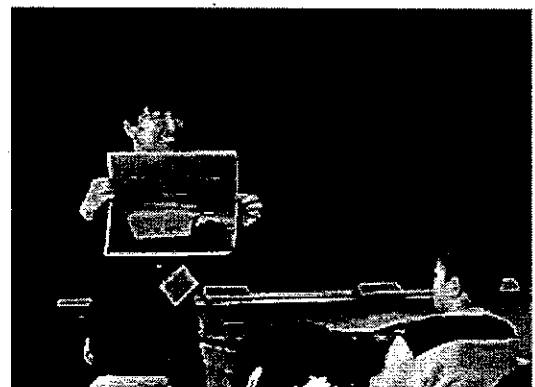
↑国語、算数ともに低位層が伸びた。

(2) 主体的な学びの実践 ～児童が問いをつくる授業～

導入の際、写真や動画などで場面を提示したことにより、児童自ら問題をつくるようになってきた。これにより、問題に対する関心が高まり、進んで自力解決に取り組む児童が増えた。

しかし、既習内容を基に問題解決に取り組むことが難しい児童が多いので、学習したことを実生活に結びつけることが今後の課題である。

また、適用問題にゆとりを持って、取り組むことができるよう導入の時間を短縮するなどの改善が必要である。必要に応じて、具体物やICT等を活用することで児童が主体的に取り組む力や理解力の向上を目指していきたい。



【問題づくりの場面】

①導入
松伏授業プランにのっとり導入は短く

●問題、課題につながる場面の設定
 写真提示、ビデオ、具体物の提示

↓

○子供達からの気づきで問題をつくる
 所要時間(5～7分)

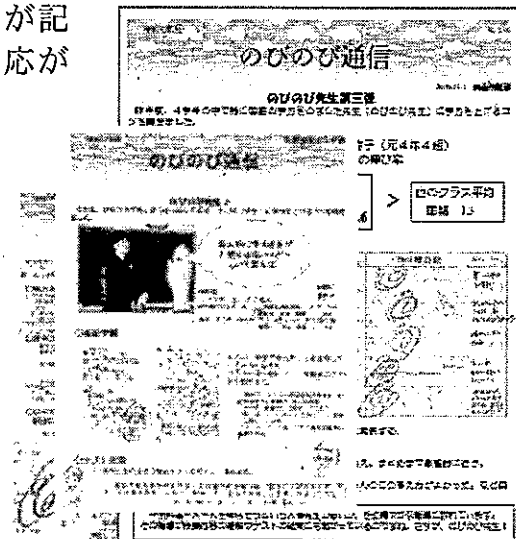
POINT: 問題作りでの声かけ
 →言葉かけ「どんなことが分かる？」
 子供達が主体的に考えるための声かけをする

(3) 各種調査分析から

本校の傾向として記述式の正答率が低いことが明らかになった。そこで、解答用紙を詳しく分析した結果、「問われていることに対して、正しく答えていない」や「多くの情報の中から必要な情報を的確に選択できていない」ことなど問題を読み解く力の弱さから、安易に数字を選択し立式していることが分かった。読解力の弱さが記述式の正答率の低さに関係しているため、対応が必要である。

(4) 教員向け「のびのび通信」の発行

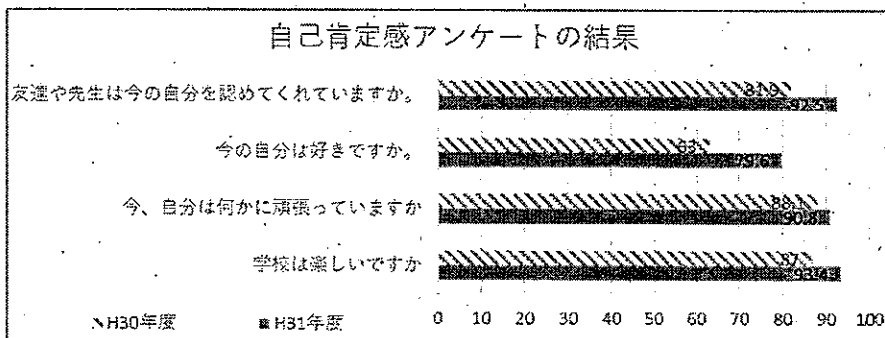
埼玉県学力・学習状況調査の分析を基に、のびのび通信を発行することで、教師の指導するポイントや、学力を伸ばした児童に学習のこつを共有することができた。



【教員のよさを共有】

(5) 児童向け「自己肯定感アンケート」

自己肯定感に関するアンケートの昨年度4月と今年度9月の結果を比較したところ、「学校は楽しいですか」の項目で87%から93.4%に6.4%上昇、「今、自分は何かに頑張っていますか」の項目で88.1%から90.8%に2.7%上昇、「今の自分は好きですか」の項目で63%から79.6%に16.6%上昇、「友達や先生は、今の自分を認めてくれますか」の項目で81.9%から92.5%に10.6%上昇した。

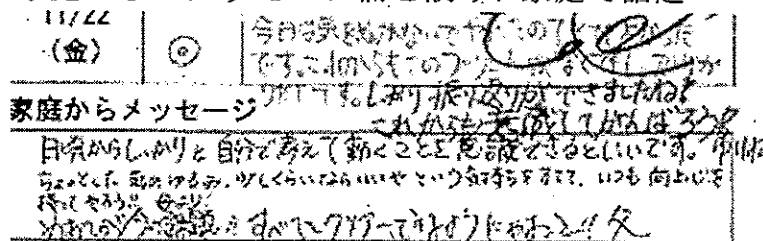


(6) 保護者向け「家庭に関するアンケート」

一学期に実施した家庭生活に関するアンケートの結果を分析し、学年ごとに課題となる項目について「はなまる」で保護者に伝え、協力を仰いだ。

その結果、二学期の家庭生活に関するアンケートでは、ほとんどの学年(1, 2, 3, 4, 6年生)で改善が図られ数値が上昇した。

家庭生活に関するアンケートの「お子さんと将来の夢について話をしますか」という問いは、全学年で数値が低く、今後の課題といえる。そこで、学級活動や道徳で、将来の夢やこれからの自分のことについて学習を行う際、使用するワークシートに家庭からのメッセージ欄を設け、家庭で話題に挙がるようにしていきたい。更に、将来や次年度に向けて、児童自身が関心を高められるよう、日々の学習や学校生活の充実を図っていく。



【保護者からの応援メッセージ】

小中連携を核とした「授業力育成」～授業改善に向けた具体的な取組～



○教委名	吉川市教育委員会
○所在地	吉川市きよみ野1丁目1番地
○TEL	048-984-3564
○E-mail	gatumon@city.yoshikawa.lg.jp
○ホームページ	http://www.city.yoshikawa.saitama.jp/

1 研究主題

- (1) 研究主題 小中連携を核とした「授業力育成」
～授業改善に向けた具体的な取組～

(2) 主題設定の理由

吉川市は教育大綱を「家族を愛し、郷土を愛し、志を立て凛として生きていく」とし、「志」を成し遂げるために「学力」「体力」「非認知能力」を高める授業の再構成を行っている。その中でも「学力」向上のため、県の学力向上研究校指定事業の委嘱を受けた吉川市立東中学校での取組を市内に広めるとともに、吉川市では小中連携を通して教員の授業力を高めることに力を入れている。

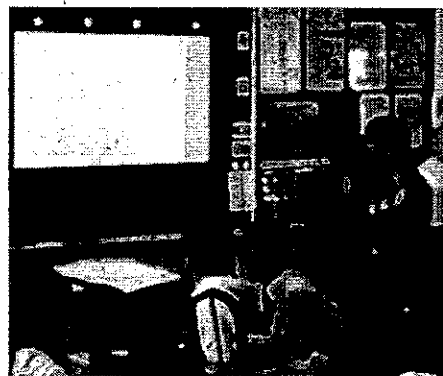
2 研究の実践

(1) 小中連携による「双方の」授業改善

ア 東中学校の学力向上の取組の一環として

小中連携の足がかりとして、東中学校では、県の学力向上の委嘱を受け、中学校の教員が小学校の算数の授業を担当し、中1ギャップの解消を目指している。具体的な取組としては

- ・中学校教員による小学校の授業を公開。
(吉川市教育研究会との連携)
- ・小学校での昼休み補習授業の実践
- ・専科加配教員以外の教員による小中連携を意識した校内授業研究会



があげられる。昨年度に引き続き、小学校のために始めた取組であったが、中学校教員が小学校の様子を知るよい機会となっており、他の小中連携校区のモデルとなっている。

イ 中央中学校ブロックによる小中連携

中央中学校ブロックでは夏季休業中に小中連携の研修会を実施した。今年度も小・中学校の教員が顔を合わせることで、児童生徒の情報交換や、それぞれの校種の授業内容などを共有することができ、授業改善の足がかりとなっている。

また、今年度は昨年度から一歩進み、教務主任、教頭が集まり、小中連携グラ

ンドデザイン作成の話合いを重ねている。その際、どのような連携ができるか具体的に意見を出し合い、中学校の学校公開日を活用し、小学校の教員が積極的に中学校の授業を参観することを行っている。

ある小学校では、参観表を作成し、全ての教員が参観できるスケジュール表を作成していた。実際に授業を参観することで、授業スタイルの違い等も学ぶことができた。

(2) 既存の事業を活用しての授業力育成

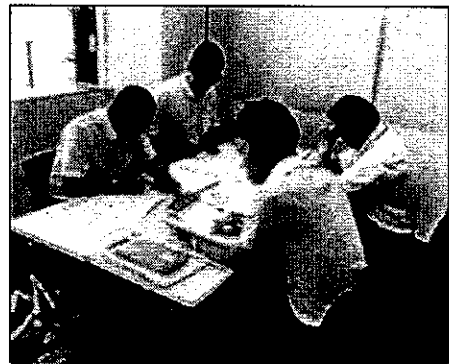
ア 年次別授業研究会の実施

本市では、授業力向上のために市独自で年次別授業研修会を実施している。その際の指導者として各小・中学校から推薦された中堅・ベテラン教員を活用しており、若手教員の授業改善につなげている。

今年度は、わずかであるが、小学校で経験を積んでいる教員を指導者として「中学校」の年次別研修に派遣している。小学校の視点から中学校の授業を参観し、指導することで、中学校の若手教員の指導の「幅」が広がっていると感じられる。今後は人数を増やし、小中連携の一助としていきたい。

イ 教育課程検討委員会での「小中連携」

教務主任が集まる「教育課程検討委員会」の中で「学力向上」のために全学調、県学調結果による各校の分析を行っている。今年度はワークショップ型で小中の担当者を混ぜたグループにして「各校の課題を挙げ、それぞれの解決策を具体的に話し合う」場面を設定した。



例年の報告会よりも具体的な内容を話し合うことで各校が抱えている悩み等も共有でき、かつ小中学校共通の課題等も見つかり、意義深い研修会となった。

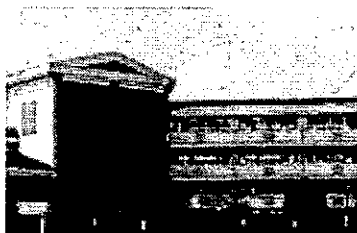
ウ 英語科での「小中連携」

中曽根小学校では、小学校英語の専科指導教員を活用し、今年度より学校研修課題を「外国語活動」とし、吉川市のモデル校として研究を深めている。研修の中では全学調「英語」の問題も教員が解くことで、中学校で求められている力を理解することにつながっている。また、校内研修会を公開していただき、中学校教員にも参加を促している。

本市で夏季休業中に行っている「中学校英語科指導力向上研修会」では講師として小学校の校長を派遣し、小学校での外国語活動の授業実践等の指導を行った。また、小学校で使用する教科書についても情報を共有し、今後の英語科としての小中連携を深めてもらう一助となっている。

主体的・対話的な学びで「わくわくする授業」を目指して

～教師の熱意が生徒の学びの学習意欲を高める～



○学校名 吉川市立東中学校

○所在地 〒342-0017 埼玉県吉川市上笹塚 3-104-1

○電話番号 048-982-0244

○E-mail yoshi-higashi-jhs@bz04.plala.or.jp

○URL <http://02.yoshikawa-ed.net/higashi/>

1 研究主題

(1) 研究主題

「学力の向上と学習習慣の確立」

～主体的学びを目指して、深い見方・考え方を育成する～

(2) 研究主題設定の理由

本校は、平成30、31年度の2カ年にわたり、埼玉県教育委員会の学力向上研究校指定事業により、「①埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果等を活用し、学校におけるPDCAサイクルの確立に向けた、実践的研究を目指す。②加配教員（数学）を配置し、小学校の算数の指導をTTで行い、小中連携を図る。③取組の成果は、次年度の前記調査で検証し、効果のあった取組を県内に普及する。」等の取組を推進してきた。また、吉川市教育大綱にある「志」教育を受け、「学力」「体力」「非認知能力」を高める授業を進めている。

昨年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果について分析を行ったところ、本校の生徒の実態として以下のことが明らかとなってきた。

ア 学力レベルについて、1～3年生ともに国語、数学は県平均と同程度であり、英語は、県平均を上回っている。しかし、学力の伸びに目を向けると、2、3年ともに数学に課題が見られる。

イ 課題のある2年生の数学を中心にさらに詳細に分析を行ったところ、次のことが明らかとなった。

- ① 基礎、基本の知識・技能において、県平均と比較して中間層で伸び悩みが見られる。
- ② 「数学的な見方や考え方」、記述式問題は県平均を上回っている。本校のこれまでの実践としてアクティブ・ラーニングを実践することで、「自分の考えを比較検討させる」など「数学的な見方や考え方」に関する向上が見られた半面、「反復学習時間の不足」による、基礎・基本の定着に課題が見られた。そこで、分析支援プログラムを活用して調べ、「数学の学力の伸びと、予習・復習をすること」には、一定の関係性が見られたことから、中間層は、この部分が不十分であると推察される。また、小学校との環境などの変化に伴う中1ギャップの影響も考えられる。以上のことから、本研究主題を設定し、数学を中心としながら、全教育活動で研究を進めてきた。

2 研究の実践

(1) 現状と課題を踏まえた仮説

研究指定内容及び本校生徒の実態から、学力向上を推進するために、次の4つの仮説を立て、研究を進めてきた。

- ア 学力の伸びが見られた教科や課題の概要に関して授業等を検証し、効果的な指導方法等を学校全体で共有することで、学力を伸ばすことができるであろう。
- イ 「コバトンのびのびシート」などを活用し、学力の伸びが見られた生徒とそうでない生徒の1年間の学習状況や生活などを分析し、その結果に基づく取組を行うことで、「学力」や「学習方略」「非認知能力」の向上につながるであろう。
- ウ 単元ごとにロードマップ（学習の進め方）を生徒に提示し、学習の見通しをもって取り組ませれば、学力を伸ばすことができるであろう。
- エ 中1ギャップの解消のために、小学校の算数の学び方と数学の学び方の連携を図ることで学力向上につながるであろう。

(2) 研究組織と主な取組

研究仮説をもとに、研究体制を組織し、研究推進委員会において、研究の全体計画や具体的な取組内容を立案し、校内研修を実施した。さらに、研究の進捗状況を確認、研究内容を修正しながら研究のまとめを行った。また、研究を推進するために「深い学び部会」と「非認知部会」を設置した。

① 深い学び部会の取組

「深い学び部会」では、教師の発問や話し合い活動など、生徒が主体的・対話的で深い学びになるような授業の研究を行った。また、中1ギャップの解消のため、専科加配による算数・数学の学習指導の小中の共有を図った。

② 非認知部会の取組

「非認知部会」では学力・学習状況調査などを分析し、仮説などの検証を行った。また、「コバトンのびのびシート」を作成し、生徒の学力の伸びとその要因の究明を行った。その結果、学び方や家庭学習などに課題があるため、「見通しをもたせた学び」などを検討し実践してきた。さらに、中1ギャップの解消のため、夏休みなどで小中合同研修会を開き、学級経営についての共有を図った。

(3) 仮説をもとにした研究の具体的な内容

校内研修において各組織で検討した結果を踏まえ、今年度、次の4つの取組を行った。

授業参観シート

記入日: 2023年10月10日 授業時間: 10:00-10:45

担任: 〇〇先生

1. 授業の概観について、本時の課題（ねらい、ねらい）を明確に記述してください。

2. 授業の進め方について、本時の学習活動（学習活動）を具体的に記述してください。

3. 授業の特色について、本時の学習活動（学習活動）を具体的に記述してください。

4. 授業の課題について、本時の学習活動（学習活動）を具体的に記述してください。

5. 授業の感想について、本時の学習活動（学習活動）を具体的に記述してください。

授業力向上2 WEEK-1 コマ10分参観～(案)

1. 授業の概観について、本時の課題（ねらい、ねらい）を明確に記述してください。

2. 授業の進め方について、本時の学習活動（学習活動）を具体的に記述してください。

3. 授業の特色について、本時の学習活動（学習活動）を具体的に記述してください。

4. 授業の課題について、本時の学習活動（学習活動）を具体的に記述してください。

5. 授業の感想について、本時の学習活動（学習活動）を具体的に記述してください。

① 授業の改善・・・教師が変わる→生徒が変わる（小学校・中学校の授業の共有）

データに基づき、校内研修で授業改善や教育活動の見直しを実施した。また、教員が相互に授業を見学しあう「授業力向上2 WEEK」を6・10月に実施した。この取組では、1コマ10分以上かつ7コマ以上の参観を目標に、図のような授業参観シートを用いて相互評価を行

い、授業改善に努めた。また、授業研究会を行い、指導案検討 (P)、研究授業 (D)、協議 (C)、授業改善 (A) のサイクルで教科をこえて「よいもの」を自分の授業に取り入れた。その他、次のように授業改善に取り組んだ。

○市内算数・数学部会で専科加配が研究授業を実施し、小学校の学習形態と連携を図り、導入（つかむ）→展開（考える）→まとめ（理解し、理解を深める）といった、1単位時間、1単元で学びの見通しをもたせた授業を展開し、対話的な活動を通して友達と協働しながらの、「何がわかったか」を明確に学習させている。

○まとめの過程では、理解したことを、自分の言葉でまとめさせ、可能な限り適用問題を解かせている。

○全国学力・学習調査の調査問題を全教員で解き、「どのような授業が求められているか」について校内研修で共有した。



①授業の改善
 ・・・・教師が変わる→生徒が変わる
 ○小中連携で小学校・中学校の学びを共有する

② 信頼関係づくり・・・学級経営の充実で学習の基盤を作る

毎年4月に校長が示す学校経営方針を職員が共有し、次のような3つの取組を行っている。

ア「2分間道徳」・・・新聞などからタイムリーな話題などを中心に資料活用し、帰りの会や日常の生徒との話の中で、話題として生徒との信頼関係を築く。

イ「あれから1週間作戦」・・・生徒を指導後、1週間後、2週間後の様子確かめ声かけをしていくことで、担任と生徒、保護者との信頼関係を築く。

ウ「3人目の声かけ」・・・生徒に、他の教員が称賛していたことなどを伝え、生徒に安心感を与えるなかで信頼関係を築く。

③ 学ぶ環境の改善・・・授業評価や学習評価、家庭学習の取組の可視化

ア 生徒会主催の2つの取組

○RYH (Raise Your Hands!) 「手を挙げよう！」プロジェクト

1週間の挙手回数をクラスで競い合い、1番のクラスを学期末に表彰する。

○授業評価

毎時間、あいさつ・チャイム席・意欲・総合評価の4観点を教科担当と学級委員で行い、クラス毎に競い合い、学期末に表彰する。

イ 家庭学習を習慣化する取組

「学習の塔（学習を積み上げるもの）」の掲示物に、家庭学習提出回数を記録。



その高さを掲示し、達成感を感じさせ、家庭学習の習慣づけを行う。

ウ 廊下や階段に、国語や英語などのクイズ形式の問題が貼られている。市内小学校のアイデアを共有。

④ 学力向上を家族とともに考える・・・「コバトンのびのびシート」の活用

一昨年、特に数学の伸びに課題があった生徒を対象に面接を実施し、授業や学習状況の確認をして、授業改善を行った。同時に、追跡調査をした結果、その生徒の伸びが著しく、学習カルテとしての活用が有効であると考えた。

そこで、埼玉県学力・学習状況調査だけでなく、全国学力・学習状況調査や定期テストなどの結果を掲載し、昨年度の学習と比較して様々な角度から検証し、自分の学習効果のあった学び方を振り返らせる活動に使用できないか検討を始めている。そして、この結果を、個人の励ましやアドバイスなどだけでなく、埼玉県学力・学習状況調査の個人結果票を三者面談で有効活用できるよう研究している。

3 研究の成果と課題

(1) 令和元年度（平成31年度）の県学力・学習状況調査の結果から分かる成果

- ① 学力を伸ばした生徒の割合が、国語は64.7%、数学は79.5%であり、県平均を上回った。
- ② 「勉強することが好きである。楽しいから」と回答した3年生が28.3%から34.4%に増えた。
- ③ 3年生の作業方略（勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる）が県平均以上になった。
- ④ 3年生の国語、数学の中間層の伸びが著しい。
- ⑤ 授業中の話し合い活動で、自分の考えを言える生徒が各学年ともに増えた。
- ⑥ 学校公開などの授業参観アンケートで、概ね良好の評価をいただいている。

(2) 今後の課題

- ① 1年生の数学で、様々な取組をしてきたが、学力がなかなか伸びていない原因を究明する必要がある。
- ② 学習習慣が身につかない生徒への指導について検討する必要がある。
- ③ 毎年多くの若手教員が入替わるため、指導力のスキルアップ体制を整える必要がある。
- ④ 非認知能力が県平均を越えてない項目が多いため、さらに原因を究明し、方策を考える必要がある。

埼玉県学力学習状況調査生徒質問紙 本校現3年生の昨年と今年の結果の比較

項目	1	2	3	4	不明	無回答
国語	7.8	29.9	39.9	22.5	0.0	0.1
本校	6.9	21.4	12.1	29.6	0.0	0.0
数学	7.1	26.7	39.1	27.0	0.0	0.1
本校	6.4	28.0	25.9	30.6	0.0	0.0

中3のはじめ本校では、勉強するのは楽しい、好きが増え、きらいが減っている

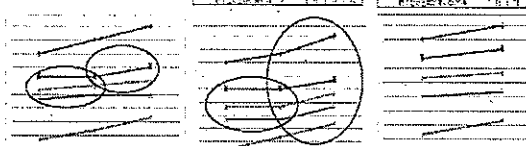
埼玉県学力学習状況調査生徒質問紙 本校現3年生の昨年と今年の結果の比較

項目	1	2	3	4	不明	無回答
国語	32.0	32.0	18.1	12.1	5.7	
本校	24.5	33.3	19.5	11.3	11.3	
数学	32.2	32.8	17.7	11.6	5.5	
本校	31.8	24.8	22.9	12.1	8.3	

3学年の学力を伸ばした生徒の割合

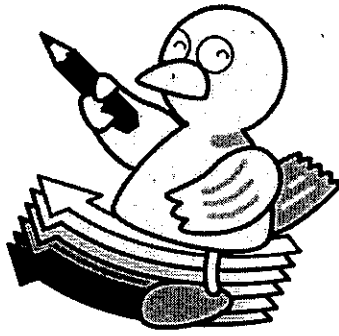
学年	学力を伸ばした生徒の割合 (%)	学力が伸びなかった生徒の割合 (%)	不明 (%)
国語	63.7	36.3	1.6
本校	64.7	35.3	1.5
数学	72.2	27.8	2.1
本校	79.5	20.5	2.7

学年	国語	数学	英語
中1	32.0	32.0	18.1
中2	32.2	32.8	17.7
中3	31.8	24.8	22.9



毎年 中1の中間層が国語、数学で伸びないのが本校の実態
中2で国語、数学の中間層がグリーンと伸びました!!!

埼玉県学力・学習状況調査



コバトン

発行	埼玉県教育局東部教育事務所
所在地	埼玉県春日部市大沼1-76
発行年月	令和2年1月
TEL	048-737-2729
E-MAIL	n372727@pref.saitama.lg.jp
ホームページ	URL http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2204/